



Web Fairy Paradise

第153号

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第129回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第130回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第137回出題

結果発表

- ・ 第128回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第135回出題
- ・ 第10回神無太郎の氾濫 解答編

読み物

- ・ Q裸Q王ばか詰(さんじろう)
- ・ FairyTopIX2020 お気に入り投票要項



2021 / 3

はじめに



桜

新型コロナウイルスが主要都市による緊急事態宣言によりやや下がり始めたかと思いきや、21日に宣言解除が決定はしているものの、ここ数日再び上昇傾向を示している。根本的にコロナ感染防止と経済活動は反対のベクトルを向いている以上どちらに舵を切っても終わりは見えてこないだろう。ただワクチン接種も開始されてきてどのような風向きになるのか？今年1年はまだこのような波が続くような気がします。

ぽかぽか陽気の日がここ数日続き、愛媛県宇和島市で3月12日に桜の開花宣言が出されました。全国で2番目だそうで、(1番目は広島)

なぜか宇和島は桜の開花が早く、2019年には日本一早く開花しており、例年上位に位置しています。(去年は東京でしたが、これは不思議な感じがします)ソメイヨシノの標準木の頑張りでしょうか(笑)新型コロナの影響で花見は出来そうにありませんが、桜が咲いたら少しだけ眺めに行きたいと思います。桜はずーっと見てもなぜか飽きませんよね。やはり日本人の心なんでしょうね。頭の中は「森山直太朗のさくら」かいきものがかりの「さくら」かが私の好みです。そういえば「さくら」っていう題名の詰将棋作品は無いんですよね。誰か創って見ていただけますか。

たくぼん

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

感想

第153号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス
*ご協力感謝します

妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>


フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

占魚亭残日録

<https://sengyotei.hatenablog.com>

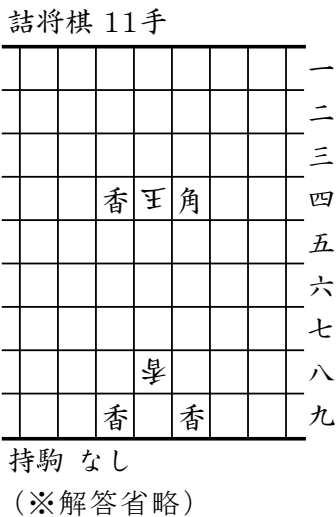
第129回WFP作品展(再掲)及び
第130回WFP作品展 担当：神無七郎

 一般化詰将棋のススメ

相馬康幸氏の「詰将棋マニアックス」のページに「psi 詰将棋」という記事があります。(http://pylons.style.coocan.jp/tume/dendo/003.htm)

「psi 詰将棋」は位置を変えても手順が(本質的に)変わらない詰将棋のことで、上記記事には私の作った例図が掲載されています。その図は9×9の通常盤で示されていますが、これは「仮の姿」で、左右に無限に広がった盤の中に駒が浮いているのが「本来の姿」です。筋の番号はなく、段の番号だけが振られている盤を思い浮かべると良いでしょう。

[例図1] PSI 詰将棋 (左右位置可変)

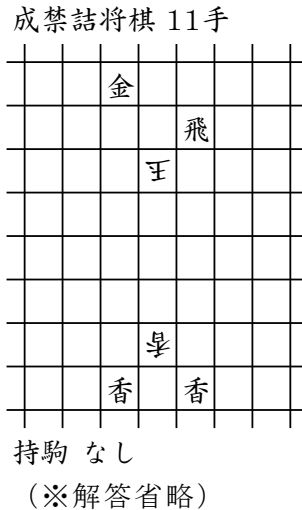


これは横長の盤上での詰将棋ですが、これを縦にも広げることを考えましょう。

縦に盤を広げる場合に問題になるのは成れる場所の設定です。将棋での可成地域は「相手陣三段目以内」ですが、縦に無限に広げた場合、相手陣は無限の彼方にあるので、自然なルール設定としては「成れない(成禁)」とするのが良さそうです。ただ、成駒は使えた方が便利なので、「最初から成駒を置く」のは可としましょう。使用駒数も無限枚とします。

この前提で例図1を∞×∞盤に移植することを考えます。詰手順には角成と香成が入っているので、成を必要としない手順に置き換えねばなりません。一例としては下図が考えられます。

[例図2] PSI 詰将棋 (上下左右位置可変)

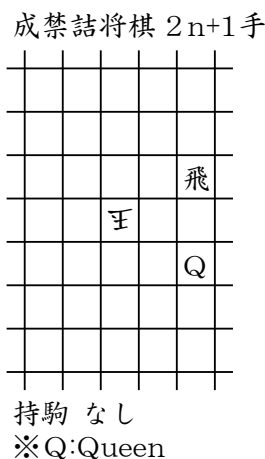


「筋」だけでなく「段」の番号もなくなったせいで、無重力空間に放り出されたような不安感がありますね。同時に何にも束縛されない自由も感じます。

ただ、せっかく枠のない世界に飛び出したのに、玉が二本の香の間の狭い回廊しか動かないのは物足りません。もっと自由に盤上を動き回れないでしょうか？

自由な空間では玉にも逃げられ易いので、話を簡単にするために強力な駒を使いましょう。例の一つとして Queen (Q) を導入し、以下のように配置します。この例では縦横3マス、斜め2マス動ける駒がちょうど良いのですが、馴染みのあるQで代用します。

[例図3] 無限盤上の独立移動体



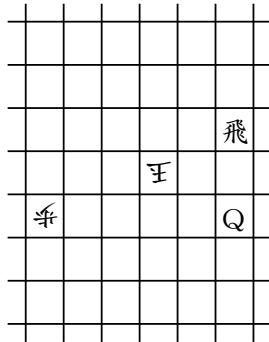
仮に飛の居る場所を「11」とすると、この3枚は「31 飛 42 玉 33Q 52 玉」の4手一組で左に移動できます。第101回WFP作品展出題稿で提唱した「独立移動体」(以下「移動体」と

呼ぶ) の一例です。Qのような強力な駒を使わなくても「移動体」が作れるかどうかは重要で興味深い問題ですが、その考察は別の機会に譲りましょう。

次にこの移動体を操作する「装置」を考えます。まずは進行方向の左折です。

〔例図4〕左折装置（左右反転を伴う）

成禁詰将棋 2n+1手



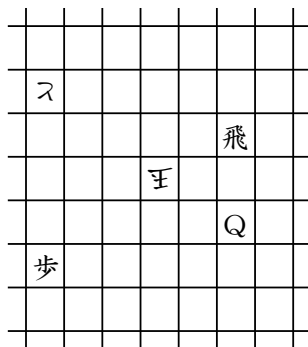
持駒 なし
※Q:Queen

こちらは「31 飛 42 玉 33Q 52 玉 51Q 43 玉 33 飛 44 玉 53Q 45 玉 …」という手順で左折が可能です。

次に反転を考えます。上の左折機構は飛とQの反転も同時に起こってしまうので、もう一度左折して反転の代わりにすることはできません。別の機構が必要です。

〔例図5〕反転装置

成禁詰将棋 2n+1手



持駒 なし
※Q:Queen

この配置では「31 飛 42 玉 33Q 52 玉 63Q 42 玉 41 飛 32 玉 43Q 22 玉 …」という手順で反転が可能です。

他にも右折装置や停止装置等、色々な装置が要りますが、まずは雰囲気だけ感じてください。

移動体とそれを操作する装置を一式用意し、移動体の到着をトリガーとして起動する機構を作れば、大規模作品が創作できます。移動体を通信手段として複数の機構を連携し、相互作用させるのです。このような巨大な詰将棋の創作は、絵画や工芸品の創作ではなく、建築や都市開発に近くなるでしょう。

これまでも無限盤や巨大盤を使うフェアリー詰将棋は散発的に発表されていますが、まだ本格的な創作が行われているとは言えません。標準盤と標準駒数に囚われず、任意の大きさの盤で任意の数の駒を使う詰将棋は「一般化詰将棋」と呼ばれます。この言葉に厳密な定義はありませんが、昨年 **soga** 氏が発表した“計算機を作ろう” (<https://uso-800-plus-alpha.hatenablog.com/entry/2020/01/01/224401>) で示された図も「一般化詰将棋」の例と考えることができます。もちろん、作れるのは計算機だけではありません。

曲詰を例に考えましょう。巨大盤と多数の駒を使えば狭い盤では作れなかった複雑な字を描くことや、滑らかな曲線を描く「高精細曲詰」ができます。複数の文字からなる「文章」を書くこともできるはずですし、立体曲詰を多段化した「アニメーション」も創作可能でしょう。

今まで私達は主に9×9の盤と40枚の駒の制約下で創作をしてきました。フェアリーではルールを変えることもありますが、それは喩えるなら部屋の内装や調度品の取り替えに相当します。別の部屋に移った場合でも、間取りを極端に変えることは稀でした。でも部屋を出れば、そこには天井や壁のない世界が広がっています。フェアリー詰将棋では室内に“自粛”する必要はありません。拡大盤上の作品を発表したことがない筆者が言っても説得力に欠けるかもしれませんが、皆さんはどんどん屋外に出かけましょう。

さて、今回のWFP作品展は第129回出題の再掲載分と、第130回の新規出題分です。

第130回の出題数は11題（ツインを含むため実質12題）で、第129回に比べ、かなり難度は上がっていると思います。初登場の駒や久々に登場するルールもあるので、補足説明や過去問を参照してご解答ください。

〔第 129 回作品展各題への補足説明〕（再掲）

第 129 回の出題は全 11 題（ツインを含むため実質 15 題）。今回登場する作者は占魚亭氏、高坂研氏、神無太郎氏、上田吉一氏、真 T 氏、変寝夢氏、藤原俊雅氏の 7 名です。藤原氏は本作品展では初登場ですが、ネット上や他誌で既に活躍をされているので、満を持しての登場と言っても良いでしょう。なお、今回は期せずして短編特集になりました。腕に覚えのある方は全題正解を狙ってください。

129-1 は占魚亭氏の Knight 王&Imitator 作品。Knight や Imitator が盤の端かその近くにいるので、「地の利」を活かす手順を考えてください。ツインなので、片方が解けると他方も解きやすいはずですよ。

129-2 及び **129-3** は高坂研氏の透明駒作品。対面と安南という人気の高い性能変化ルールとの組み合わせです。性能変化がないと指せない着手を積極的に狙ってください。

129-4 は神無太郎氏の中立駒&Imitator 作品。例によって玉以外のすべての駒が中立駒化したという設定です。今までの氏の作品と同様、盤上の駒を増やす最終形を考えてください。

129-5 及び **129-6** は上田吉一氏によるホッパー系のフェアリー駒を使った作品。登場するのは Non-Stop Equihopper と Lion です。Non-Stop Equihopper は本誌初登場。ある駒を中心に現位置から点対称の位置に跳ぶ駒です。

「Non-Stop」が付かない Equihopper は合駒が可能なこともあります。「Non-Stop」の付いた Equihopper の場合は合駒で止めることはできません。Lion は本作品展でも結構登場しているので、もうすっかりお馴染みですね。初見の方は **WFP91-5**（変寝夢氏作）等を参考に、駒の特徴を把握してください。

129-7 及び **129-8** は真 T 氏の最悪詰。でも、ただの最悪詰ではありません。透明駒を使用した最悪詰です。今回の 2 局は小手調べといったところなので、今のうちにこの組み合わせに慣れておきましょう。

129-9 及び **129-10** は変寝夢氏の作品。

129-9 は詰めるべき玉が最後になって現れる「リパブリカン」の作品。茫洋とした初形ですが使用駒数が少ないので、詰上りの想定が鍵を握ります。直近では **WFP123-11** でリパブリカン作品が登場しているので参考にしてください。

129-10 は駒を取る時と、取らない時の動きが

異なる Marine Piece の一種である Siren（汝）を使った作品。手数は 12 手ですが、最初の 4 手は必然なので、残り 8 手が本番です。直近では **WFP119-5** に Siren が使われているので、参考にしてください。

129-11 は本作品展初登場となる藤原俊雅氏の作品。配置は同じで手番と手数だけが異なる対のツイン。いわばツインのツインです。解図は容易だと思いますので、まずはこの作品から解図を始めると良いでしょう。

〔第 130 回作品展各題への補足説明〕

第 130 回の出題は全 11 題（ツインを含むため実質 12 題）。今回登場する作者は高坂研氏、神無太郎氏、占魚亭氏、真 T 氏、上田吉一氏、変寝夢氏、青木裕一氏の 7 名です。長編、初登場のフェアリー駒、久々登場のルール等、見るからに手応えのありそうなラインナップですね。でも面白い作品ばかりなので、苦勞しがいがあると思います。

130-1 は高坂研氏の透明駒&キルケ作品。ツイン（組局）ですので、なるべく両方解いてください。キルケに慣れた方なら、攻方玉位置を見ただけで詰上りが想像できると思います。

130-2 及び **130-3** は神無太郎氏の Imitator&中立駒作品。氏の過去作と同様、双方の玉以外はすべて中立駒なので、スタイルメイトにするのは大変ですが、Imitator を最大限に活用して駒達を「凍結」させてください。

130-4 は占魚亭氏の Imitator&古将棋駒作品。双方の玉が大局将棋の「猛牛」（丑）の性能になっています。丑は「ちょっと早い 2021 年年賀詰作品展」でも登場しましたが、本作品展では初登場です。丑は移動距離が制限された飛車と考えれば良いのですが、成ると金の性能になり、移動可能なマス数が減るといった珍しい特徴を持っています。本局は「ちょっと早い 2021 年年賀詰作品展」の作品と異なり、丑が成れるルール設定ですので、それを念頭に置いて解図してください。

130-5 は真 T 氏の最悪詰。前回の **129-7** 及び **129-8** と同様、透明駒を使用しています。本局は透明駒を 13 枚も使用しており、小手調べの段階から、本格的な透明駒の活用に段階を進めた印象があります。協力系ルールではないので、本来なら変化・紛れの両方を読まないといけませんが、透明駒の枚数と手数を比べると、

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この **Imitator** が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く

→参照：WFP75号「Imitatorの紹介」

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【対面】

敵駒と向かい合ったとき、互いに利きが入れ替わる。

【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

【安南】

味方の駒が縦に並ぶと、上の駒の利きは下の駒の利きになる。

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【中立駒】(「 E 」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはで

きない。

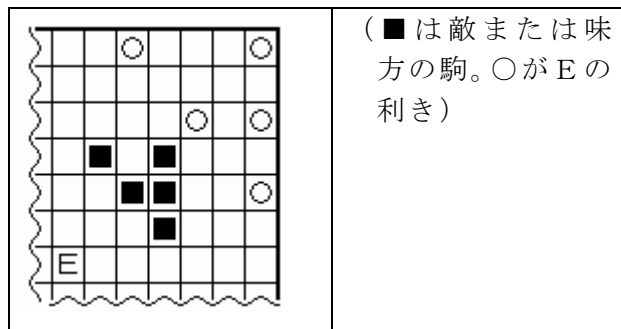
6) 中立駒は行き所ない駒にならない。

7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【Non-stop Equihopper】(E)

フェアリーチェスの駒。任意の方向に駒を1枚飛び越えて点对称の位置に動く。行先が埋まっていると跳べない。



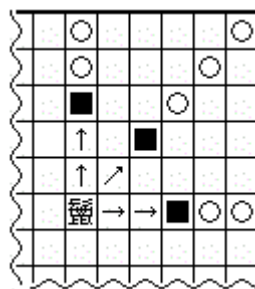
(補足)

- ・Equihopper と異なり、現位置と跳び先の間のマスに駒があっても跳べる。つまり合駒は効かない。

【Lion】(鬣)

フェアリーチェスの Lion。

クィーンの利きの方向にある駒を1つ飛び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(Oが鬣の利き。

■は敵または味方の駒。Oの地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

(補足)

- ・「詰める側」と「詰みを防ぐ側」が通常とは逆になっている。このため用語も逆になっており、「紛れ」を受方に、「変化」を攻方に使う。

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。

(補足)

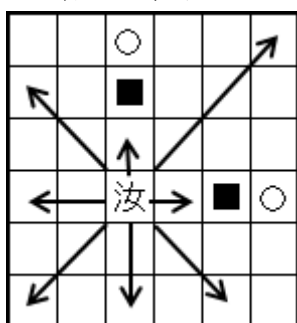
- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

→参照：WFP92号「リパブリカン詰の紹介」

【Siren】(汝)

フェアリーチェスの Siren (汝)。

駒を取らないときは Queen の動き。駒を取るときは Locust の動き (Queen の利きの方向にある敵駒を跳び越えその 1 つ先の空きマスに着地し、跳び越えた敵駒を取る)。



(矢印が駒を取らない時の動き。○が駒を取る時の移動先。■は敵駒。これを取って○に行く。■が味方の駒だったり、○の地点が埋まっていたりするとそこには行けない。)

→初出：第 102 回 WFP 作品展 (WFP119 号)

【受先】

受方から指し始める。

【キルケ】

駒が取られると最も近い将棋での指し始め位置に戻される。戻せないときは持駒になる。

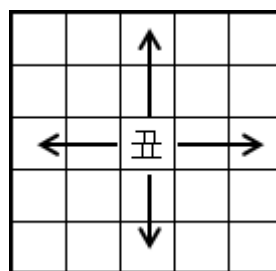
(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 成駒は生駒になって戻る。
- 2) 戻り位置が埋まっていたり、二歩になったりする場合は戻れない。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 金銀桂香 (成駒も含む) が 5 筋で取られ、複数の戻り先候補がある場合、戻る位置を選択できる。

【猛牛】(丑)

大将棋の駒。縦横に 2 マス動けるが、飛び越えては行けない。成ると金将になり、縦横と斜め前に 1 マス動ける。



(矢印が猛牛の利き)

(補足)

- 1) 飛と異なり走る距離の制限がある、いわゆる「限定走り」。一間離れた王手なら合駒が可能。
- 2) 成ると金の利きなので、行動できるマスの数は減少する。

【PWC】

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 取られた玉は復元しないものとする。

【詰将棋】

攻方は受方がどのように応じて詰むように攻め、受方はなるべく詰まないように応じる。(いわゆる普通の詰将棋)

(補足)

- ・本作品展では普通の詰将棋は「詰将棋」と表記して出題する。
- ・攻方最短を要求するときは「最善詰」とする。

【レトロ -m+n 手】

m 手逆算して n 手で詰む手順を求める。

(補足)

- 1) 特に注釈のない場合、逆算も攻方王手義務があることを前提とする
- 2) 協力系の場合逆算も双方が協力する。また、指定より短い手数で逆算や短い手数の詰手順が成立する場合、それが優先される。

【Friend】(響)

フェアリーチェスの Friend。

本来は利きを持たないが、味方の駒の利きに入ると、その駒の利きを持つ。

(補足)

- ・複数の味方駒から利かされると、それらを合成した利きになる。
- ・味方の Friend から利きを写すこともできる。利きの転写は再帰的で、利きが増えた結果、更に多くの Friend を巻き込み、相互に利きを増幅させることも可能。

【Koko】

着手は、そのまわりの8マスに何らかの駒が存在するような地点のみ有効。

(補足)

- ・王手にもこの条件は適用される。玉を取っても周りに駒がない場合、王手とみなされない。

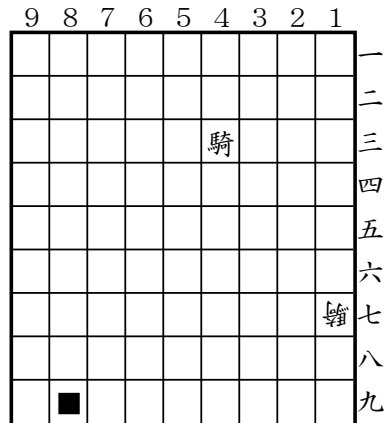
→参照：WFP42号「Kokoについて」



<第 129 回>解答締切:2021年4月15日(木)

■ 129-1 占魚亭氏作

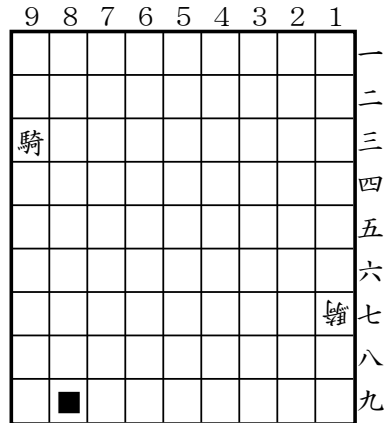
a) 協力自玉詰 4手



持駒 歩

※■:Imitator、騎:Knight王

b) 協力自玉詰 4手

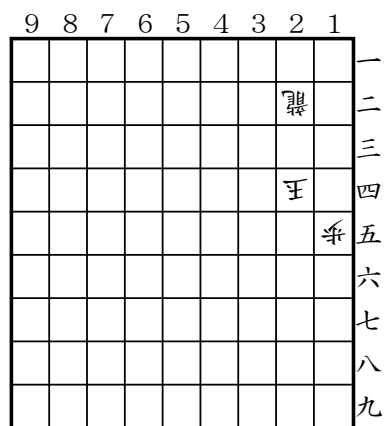


持駒 歩

※■:Imitator、騎:Knight王

■ 129-2 高坂研氏作

対面協力詰 3手



持駒 飛角

※透明駒:攻方0枚、受方1枚

■ 129-3 高坂研氏作

安南協力詰 3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					王			一
							歩	二
					王			三
								四
		糸						五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし
※透明駒:攻方1枚、受方1枚

■ 129-4 神無太郎氏作

協力自玉スタイルメイト 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
						■		一
							王	二
								三
								四
								五
								六
								七
							王	八
								九

持駒 n飛
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 129-5 上田吉一氏作

協力詰 9手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
			糸	王	糸			一
		糸						二
				酒				三
								四
	E						E	五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし
※E:Non-stop Equihopper

■ 129-6 上田吉一氏作

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
					王			四
								五
		鬮	香					六
								七
								八
	王					鬮		九

持駒 なし
※鬮:Lion

■ 129-7 真T氏作

最悪詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
							王	一
								二
						玉		三
								四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒 なし
※透明駒:攻方1枚、受方1枚

■ 129-8 真T氏作

最悪詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
								一
								二
								三
								四
								五
							玉	六
								七
								八
							王	九

持駒 金4
※透明駒:攻方0枚、受方1枚

■ 129-9 変寝夢氏作

リパブリカン協力自玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					飛				二
			王						三
									四
									五
					銀				六
									七
									八
角									九

攻方持駒 桂2
受方持駒 なし

■ 129-10 変寝夢氏作

協力自玉詰12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			駒	汝					二
									三
									四
		王							五
									六
									七
									八
							王		九

持駒 なし
※汝:Siren

■ 129-11 藤原俊雅氏作

a1) 協力詰3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					歩			皇	二
			角		桂	飛			三
					王				四
									五
					銀				六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

a2) 協力詰4手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					歩			皇	二
					角		桂	飛	三
							王		四
									五
						銀			六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

b1) 協力詰3手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						歩		皇	二
					角			飛	三
							王		四
							桂		五
						銀			六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
受方持駒 なし

b2) 協力詰4手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
						歩		皇	二
					角			飛	三
							王		四
							桂		五
						銀			六
									七
									八
									九

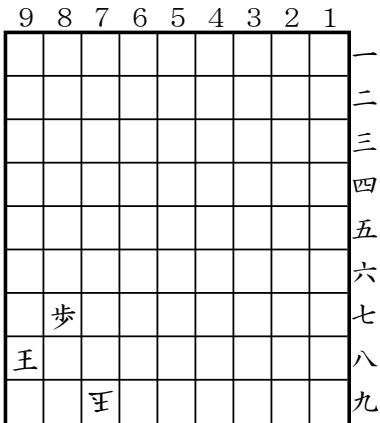
攻方持駒 なし
受方持駒 なし

以上

<第 130 回>解答締切:2021 年 5 月 15 日(土)

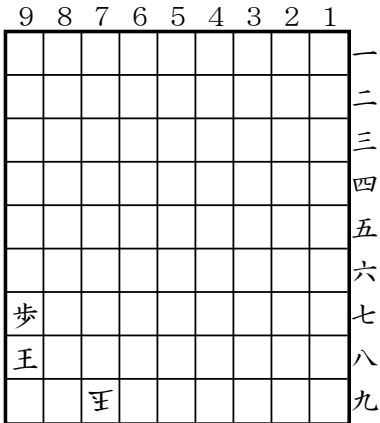
■ 130-1 高坂研氏作

a) キルケ協力自玉詰 4手



持駒 なし
※透明駒:攻方1枚、受方0枚

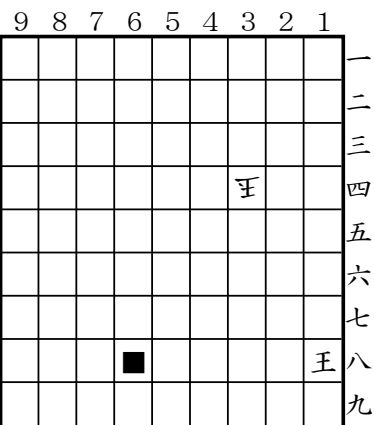
b) キルケ協力自玉詰 4手



持駒 なし
※透明駒:攻方1枚、受方0枚

■ 130-2 神無太郎氏作

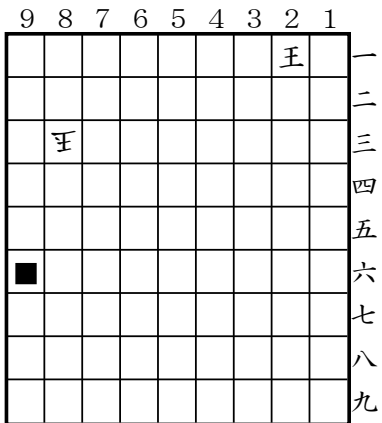
協力自玉スタイルメイト 6手



持駒 n角
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 130-3 神無太郎氏作

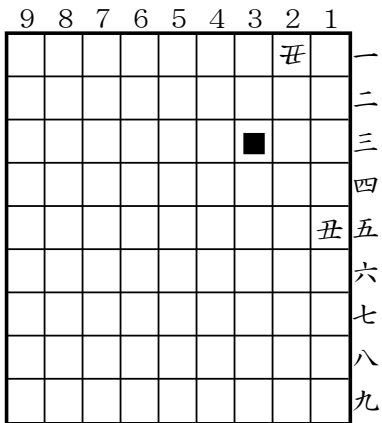
協力自玉スタイルメイト 6手



持駒 n桂
※■:Imitator
玉以外はすべて中立駒

■ 130-4 占魚亭氏作

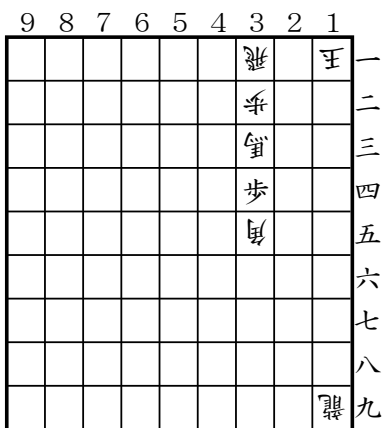
協力自玉詰 6手



持駒 飛
※■:Imitator
丑:猛牛(大将棋)王

■ 130-5 真T氏作

最悪詰 25手



持駒 なし
※透明駒:攻方13枚、受方0枚

■ 130-6 上田吉一氏作

PWC打歩協力詰 91手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
王	歩									一
									歩	二
王									龍	三
								飛		四
										五
	歩	桂								六
歩										七
										八
										九
	香									

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※騎:Knight

■ 130-7 上谷直希氏作『2/77』

詰将棋 4手 (受先)

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
							銀	桂		八
								王		九

持駒 なし
 ※透明駒:攻方2枚、受方0枚
 同手数駒余り変化を劣位とする
 すかし詰可

■ 130-8 変寝夢氏作

レトロ協力詰 -2+1手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
								歩	歩	一
								王		二
									王	三
										四
									角	五
										六
										七
										八
										九

持駒 なし

■ 130-9 変寝夢氏作

協力白玉詰 14手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
皇	皇								龍	一
								龍		二
								王		三
										四
										五
										六
								王		七
										八
										九

攻方持駒 角
 受方持駒 なし
 ※響:Friend

■ 130-10 青木裕一氏作

Koko協力詰 5手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
										一
									皇	二
									王	三
								桂		四
									歩	五
										六
										七
										八
										九

持駒 金

■ 130-11 青木裕一氏作

Koko協力詰 5手

										9 8 7 6 5 4 3 2 1
										一
										二
										三
									王	四
								飛	王	五
								飛	馬	六
										七
										八
										九

持駒 銀

以上

「第 54 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

【例題】上谷直希氏作
詰将棋 4手 (受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
					龍	銀		角	二
							香	香	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし
※同手数駒余り変化を劣位とする
すかし詰可

【解答】

22 銀 31 龍 同銀 21 角成 まで 4 手

【主な変化】

- 初手 22 銀のところ、
- ・受けに有効な着手を選ばなければ 21 角成 まで。
 - ・23 角は 31 龍まで。
 - ・22 金は 31 龍、21 合、同角成まで同手数駒余り。

【作者のコメント】

作意と変化を差別化させることを考えるとプレーンの受先普通詰将棋の最短は 4 手となるのでしょうか。4 手で完全作を得ようとすると両王手ぐらいしか思いつきませんでした。

☆普通詰将棋に受先形式を適用した場合、必至が掛かった状態で、最善の粘りを探すことに相当します。初手の候補はたくさんありますが、短手数あるいは同手数駒余りを避けられる手は初手 22 銀のみです。

☆なお、最終手は「21 角生」でも詰みます。普通詰将棋で最終手余詰は不問ですが、作者は両王手利用を前提としていたようなので、少し味が悪いですね。

「第 54 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「将棋の格言」です。

将棋の格言に忠実な手順や、格言に反する手順をフェアリーらしく表現した作品をお寄せください。

例)「三桂あって (自分が) 詰まぬことなし」

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
							王	銀	五
								銀	六
									七
									八
							王	桂	九

持駒 桂3

18 桂 同飛生 38 桂 同飛生

18 桂 同飛上成 まで 6 手

なお、作品投稿時は関連する格言を添えてください。

出題時は元の格言 (上の例なら「三桂あって詰まぬことなし」) を明示しますが、作品と格言がどう関連するかは伏せて出題します。

また、1 題通常の協力詰 (ばか詰) を募集します。こちらは必ずしもお題とは関係なくとも構いませんが、お題に合った作品を優先して採用したいと思います。

作品要件	将棋の格言にちなんだ作品
募集締切	2021 年 4 月 18 日 (日)
募集作品数	4 + 1 (協力詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可。採否は 4 月 25 日までに通知します。

第128回WFP作品展結果 担当：神無七郎

第128回WFP作品展の結果を報告します。
 今回の出題は全11題(ツインを含むため実質12題)。解答者数6名。全題正解者2名。解答の内訳は以下の通りです。

【第128回WFP作品展成績】(敬称略)

○:正解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5a	5b	6	7	8	9	10	11	計
たくぼん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
占魚亭	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
真T	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	11
はなさかしろう	-	○	○	○	○	○	-	○	○	○	-	-	8
一乗谷酔象	○	-	-	○	○	○	-	○	○	-	-	○	7
変寝夢	○	○	-	-	○	○	-	○	○	×	○	-	7

今回も解答者数は相変わらず少なかったのですが、解答成績は良好。難度が高いわけではないので、解図に着手さえすれば解きやすい問題が多かったはず。

作品の方も全題完全で一安心。機械検討ができないルールもありましたが、作者自身による検討が行き届いていたおかげで、無事完全作として結果稿を迎えることができました。次回以降も全題完全が続くよう願っています。

■ 128-1 上田吉一氏作 (正解5名)

PWC協力自玉詰 44手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								と		王
								駒		
										王
										歩
歩										

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし
 ※32馬は中立駒

【ルール】

• 中立駒 (「駒」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 中立歩による打歩詰は禁止。二歩禁も適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

• PWC

取られた駒は取った駒が元あった場所に復元する。(駒位置の交換となる)

(補足)

戻り方等は以下の細則に従う

- 1) 駒の成・生の状態は維持されたまま位置交換される。
- 2) 位置交換の結果、相手駒が二歩になったり、行きどころのない駒になる場合は、通常の駒取りと同じで、盤上に戻らず、自分の持駒になる。
- 3) 駒取り時、駒が戻るまでを一手と見なす。
- 4) 取られた玉は復元しないものとする。

※補足

駒取りが駒位置交換になるPWCの規則は中立駒にも適用される。中立でない手番側の駒との位置交換はできないことに注意。

• 協力自玉詰

先後協力して最短手数で攻方玉を詰める。

【解答】

21n馬 87n馬 88n馬 89n馬
 99n馬 同歩成/98n馬 同n馬/98と 89n馬
 88n馬 同と/98n馬 21n馬 87n馬 88n馬/87と 78n馬
 77n馬 同と/87n馬 21n馬 76n馬 77n馬/76と 67n馬
 66n馬 同と/76n馬 21n馬 65n馬 66n馬/65と 56n馬
 55n馬 同と/65n馬 21n馬 54n馬 55n馬/54と 45n馬
 44n馬 同と/54n馬 21n馬 43n馬 44n馬/43と 34n馬
 33n馬 同と/43n馬 21n馬 32n馬
 33n馬/32と 22と まで 44手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							と	王	一
								ス	二
						馬		王	三
								歩	四
									五
									六
									七
									八
									九

攻方持駒 なし
 受方持駒 なし

【解説】

中立馬を使った「と金鋸」。
 前回WFP127-2で中立龍を使って金の運搬を見せてくれた作者。今回は盤上に金気はありませんが、98歩を成らせれば「と金」に変えることができます。
 でも、早合点してはいけません。初手から「33n馬 43n馬 44n馬 54n馬…」のように馬鋸で歩に近づくのは悠長すぎます。第一、馬鋸の軌道が「33n馬 34n馬 44n馬 45n馬…」でも良い時点で変だと気付くでしょう。
 作意の「21n馬 87n馬」は歩に接近する最短の手段。うっかり歩を取ると歩を成らせることができないので、歩を取らないギリギリの位置に中立馬を寄せるのです。以下、中立馬を回り込むように 99 に移動し、歩を成らせれば準備完了。6手一組の「と金鋸」の始まりです。
 と金鋸は交換位置を調整するための中立馬の往復と、PWCによる位置交換で構成されています。

PWCでは位置交換後に王手駒が都合の悪

い位置に移動してしまうという問題が頻繁に起こります。例えば本局では 11 手目すぐ 88n馬とすると、9 手目の局面に戻ってしまいます。局面を進行させるために、98n馬を 87n馬にする 2 手を挟み、都合の良い位置に直す必要があるのです。

こうして「と金鋸」を続け、攻方玉に近づければ後は自然な収束。最終手「22と」は「同n馬」とはできません。自玉に王手を掛けてはいけなからです。フェアリー駒を利用したこの詰め方も WFP127-2 と通じるものがありますね。この中立馬は詰上りで攻方玉の逃げ道を塞いでいます。敵味方両面の顔を持つ中立駒ですが、最後は敵の顔をしているわけですね。

なお「31と」は受方玉の行動を制限するための配置です。受方玉が動けると玉の方から歩に近付き、最後には「33玉 22と」の形で詰む早詰筋があります。双方不動玉のままでもこんな複雑な手順が実現できるのは、中立駒とPWCルールの相性の良さを如実に示すものだと思います。

【短評】

真Tさん

と金を引っ張ってくる n馬の玄妙な動き。すごい一言。気に入りました。

占魚亭さん

n馬の軌跡が小さくなっていく面白さ。とても楽しい作品でした。

たくぼんさん

1 手で行ける所を 2 手で移動する不思議な手順。

一乗谷酔象さん

行ったり来たりの不思議な n馬鋸。



■ 128-2 上田吉一氏作（正解5名）

協力白玉詰6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			王	鬘	垂				三
									四
			歩	王	桂				五
									六
									七
									八
									九

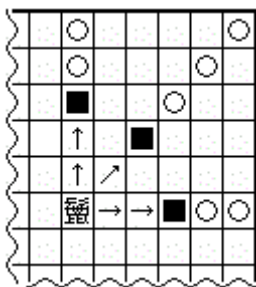
持駒 角金
※鬘:Lion

【ルール】

•Lion（鬘）

フェアリーチェスのLion。

クィーンの利きの方向にある駒を1つ跳び越えその先の任意のマスに着地する。着地点に敵駒があれば取れる。



(○が鬘の利き。
■は敵または味方の駒。○の地点が埋まっていると、その先には跳べない。)

【解答】

73 金 同鬘 53 桂成 同鬘 45 角 54 桂
まで 6手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			王	鬘	垂				三
				桂					四
			歩	王	角				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

「=」に見える初形。詰上りも象形で、立体曲詰とも呼んでも差し支えない作品です。この初形に邪魔駒が混じっているとと言われても、俄かには信じられないかもしれません。

その邪魔駒は45桂。これがなければ「45角54桂」の2手で詰むのです。65歩と同様、攻方玉の脇を塞ぐ駒に見えるだけに意外性は充分ですね。その消し方も味なもの。53のLionを取れるのに、取れる駒をわざわざ逃がし、逆にそのLionに取って貰って桂を消します。いわゆる「原形消去」で、その気持ち良さはどんなルールでも共通です。

これで邪魔駒が消えたので、その跡地に角を据えます。もちろんこれは限定打。遠くから打っては攻方玉の脇を塞げません。

最終手の54桂は跳躍台の設置によるLionの逆王手。桂である理由は46・66地点の脱出防止。Lionは味方の駒も相手の駒も跳び越えられるので、これを角で取っても王手の回避になりません。もちろん攻方玉でも54桂を取れず、これで詰みです。

これは一種の手筋物ですが、フェアリーではむしろ手筋物は新鮮です。手順・形共に洗練された作品です。

【短評】

変寝夢さん

駒がどいた跡地に着手を2回していたのには、中々気づかなかった。

フェアリー駒を使っているのに妙に懐かしい手触りを感じた。

真Tさん

邪魔消去がいいですね。

鬘の特性がよく現れています。

占魚亭さん

5手かけて桂を角に。

たくぼんさん

5手目で初形から桂→角と変わり次の1手で止めを刺す。これはお見事。

はなさかしろうさん

54桂がぴったり。道が開けました。

■ 128-3 神無太郎氏作（正解4名）

点鏡協力自玉スタイルメイト 10手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
							王		六
									七
									八
								王	九

持駒 桂

【ルール】

• 点鏡

55 に関して点対称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

・行き所のない駒の禁則は適用されない

→初出：第 108 回 WFP 作品展 (WFP127 号)

• スタイルメイト

王手は掛かっているが合法手のない状態にする。

• 協力自玉スタイルメイト

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【解答】

91 桂 28 玉 82 桂生 91 飛 29 王 81 角
38 王 72 歩 37 王 73 歩 まで 10 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛	角								一
	桂								二
		歩							三
									四
									五
						王			六
							王		七
									八
									九

持駒 なし

【解説】

昔 (30 年前くらい)、短編で「最終手歩」が流行ったことがあります。歩は弱い駒なので、派手な手が要求される短編で主役に抜擢されることが少ないですし、打歩詰禁の制約が「最終手歩」の作品を低減させます。それだけに、最終手歩は新鮮に感じられたのです。

普通詰将棋での「最終手歩」は突歩詰か歩の開き王手ですが、フェアリーでは別の手段が可能です。そして本局でのそれは王手回避です。

自玉系の性能変化ルールは、攻方玉を弱い駒にするのが基本です。WFP127-6 では攻方玉を桂にしました。本局では自玉を桂ではなく歩にしてスタイルメイトにするのですが、打歩でスタイルメイトにするのではなく (打歩詰は禁止ですが打歩スタイルメイトは禁止されていません)、突歩でスタイルメイトにするのが独特の味わいを生んでいます。性能変化ルールとはいえ、玉が 2 回続けて歩に変身するのは非常に珍しい手順です。

本局の見所は収束だけではありません。玉同士が体を入れ替えるための、82 桂生や、攻方玉を飛角に変身させる手順も見事です。

飛や角は強力な駒に思えますが、飛は斜めに利かず、角は前に利かず、適度な弱点を持っていることが、接近戦では有効に働きます。近傍に利かない地点があるからこそ、ニアミスしても平気なわけですね。

双裸玉から攻方玉が 4 種の駒に変身する手順は華麗の一語。鑑賞だけでも楽しめる作品だと思います。

【短評】

真Tさん

最終 3 手の味がいいですね。

占魚亭さん

3 手目が肝。

変寝夢さん (※無解)

歩限定は面白い。

8 2 桂が Imitator に思えて仕方がない。

たくぼんさん

72 歩~73 歩突きは信じられないような展開でした。



■ 128-4 真T氏作 (正解5名)

All-in-Shogi協力詰 6手(受先)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

【ルール】

• 協力詰

先後協力して最短手数で受方玉を詰める。

• 受先

受方から指し始める。

• All-in-Shogi

双方とも自分の駒だけでなく相手の駒を動かすこともできる。ただし、双方とも1手前の局面に戻す着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手玉を動かす王手や、相手の持駒を打つ手も可。
 - 2) 相手に相手の駒を取らせることはできない。
 - 3) 相手の駒に自分の駒を取らせたとき、その駒は相手の持駒となる。
 - 4) 自玉を取らせる手は反則
- 参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【解答】(※相手の駒を動かす手をvで表す)

53 飛 44 角 53v 角成 65 飛 63v 飛成 64v 玉
まで 6手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			龍	馬					三
			王						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者コメント】

5手で持駒飛角だと余詰あり。ふと6手にすれば完全になることに気がつきました。

【解説】

飛んで火に入る夏の虫。この場合は自分から「入る」ではなく「入らせる」と呼んだ方が良いでしょう。All-In-Shogiらしく玉を焦点に呼び込ませる両王手の詰上りが鮮やかです。

作者のコメントにもあるように持駒を飛角にして5手詰とすると、飛を先にするか、角を先にするかの手順前後が生じます(飛を先に打った場合は、対称性が崩れるので、更に非限定も加わります)。

一般に「受先」は初手の自由度が高く余詰を生じ易いのですが、「受先」を持駒調達に使うと、余詰を防止することもできます。持駒の打順前後の修正に悩んだ場合は「受先」も選択肢の一つとして頭に入れておきたいですね。

ここでルール解釈に関する話をします。

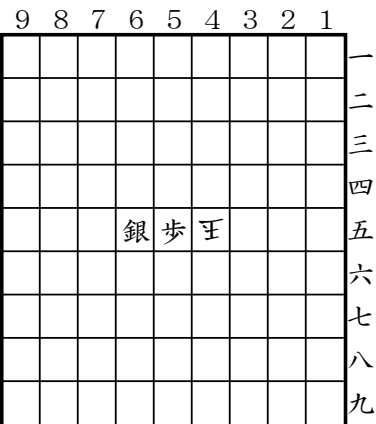
4手目から「56 飛 45 玉 54v 玉」とする紛れについて考えましょう。これは「65v 玉」で逃れています。ただ「65v 玉とした局面は 45v 玉とした局面と左右反転すれば同一になるので反則じゃない？」と思う人もいるかもしれません。

以前にも同様の話題を取り上げたことがありますが、本作品展では、左右反転した局面を同一局面とは扱いません。左右対称形からの左右対称解を同一視するだけです。同一視するのはあくまで「手順」です。従って上記の紛れは不詰です。

これは他のルールでも同様です。協力千日手の例をご覧くださいませ。

〔例図〕 左右対称の扱い

協力千日手 4手



持駒 なし

54 銀 56 玉 65 銀 45 玉 まで 4手

この図で「54 銀 56 玉 45 銀 65 玉」とすれば初形を左右反転した局面になりますが、これは初形と同一局面とは扱いません。この図に余詰はなく、唯一解の完全作なのです。

もし左右反転した局面を同一局面と扱うルール設定の作が投稿された場合は、その旨を明記して出題します。

【短評】

占魚亭さん

初形も手順も見事です。

変寝夢さん (※無解)

なるほど。53 飛は想定内だったが、44 角は気がつかなかった。定番の詰め上がり (余詰筋) になりそうですね。

たくぼんさん

物凄い両王手。これで捕まっている。

はなさかしろうさん

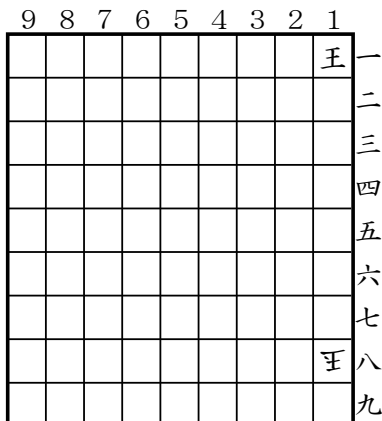
2手目は64角でも良いので…何か間違えているのでしょうか。

☆妙なところで悩ませてしまってすみません。途中左右対称の扱いは解説で述べた通りです (ルール自体が左右非対称な場合は除く)。



■ 128-5 占魚亭氏作 (正解 6名)

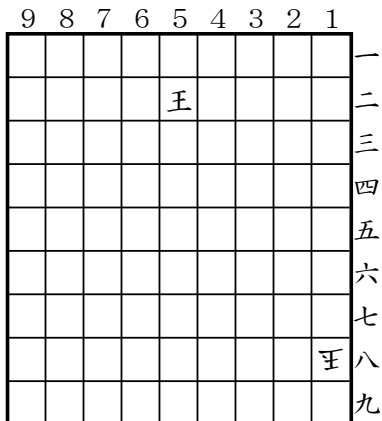
a) 協力白玉詰 4手



持駒 nQ

※nQ:中立Queen

b) 協力白玉詰 4手



持駒 nQ

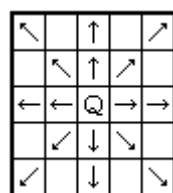
※nQ:中立Queen

【ルール】

• Queen (Q)

チェスの Queen。飛車と角を合わせた性能を持つ。

(矢印がQの走る方向)



【解答】

a) 54nQ 45角 98nQ 88角 まで 4手
(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									王
					馬				
	♁	馬							王

持駒 なし

b) 11nQ 13飛 81nQ 72飛 まで 4手
(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	♁								
		飛		王					
									飛
									王

持駒 なし

【作者のコメント】

投稿するタイミングを逃していたものです(2016年6月完成)。客寄せになりますかね？

他にもタイミングを逃したものがあるので、今後は新しいものと織り交ぜて投稿していきます。

【解説】

Queen (Q) を「3枚目の角」「3枚目の飛」として使う組局。

盤隅の玉を角だけで捕まえる時や、中段の玉を飛だけで捕まえる時は、各々角と飛は3枚必要です。将棋に大駒は2枚ずつしかないので、Qにその代わりに務めさせます。双裸玉は盤上に2枚しか駒がないので、ツインにしては図の相違が大きく感じますが、手順の対照性はまさ

しくツインです。

この手順を双裸玉で実現するため、陰に陽に活躍しているのが中立Q。敵でもあり味方でもある中立駒の性質は協力系ルールでは非常に便利です。

中立駒使用の効果はまず手数削減。a)b)とも玉同士が遠く、普通ならとても4手では詰まない形です。中立Qを使うことで、双方の手番を最大限に利用し短手数で詰型を作れます。

中立駒使用のもう一つの効果は「取れない合駒」。合駒を取った手が自身への王手になるため、最終手の合駒を取れません。

更には、中立駒自身も攻方玉の包囲網形成に参画しています。a)では角、b)では飛の代用として攻方玉の逃走を防いでいることをご確認ください。

盤隅の玉は飛でも詰みやすいので、a)が角でしか詰まないのは不思議にも思えますが、これは同じ筋に玉同士が並んでいるという要因が大きいのだと思います。協力自玉詰で「玉同士が同じ筋や同じ段」、「玉同士が同じ斜めの線上」は特殊な手順が必要になることが多いので、創作時は狙い目です。

中立Qを使った協力自玉詰双裸玉は、中立駒の手筋が色々出てきます。皆さんも自分で様々な条件を試してみて、面白いと思う手筋が見つかったら、応用を考えてみてください。

【短評】

真Tさん

飛と角でそれぞれ限定されているのがうまい。

占魚亭さん

当初は Amazon (媽) を使う予定でした。

☆Amazon は Queen と Knight の性能を併せ持つ超強力な駒。直近では WFP97-15 (変寝夢氏作) で登場していますので、ご参照を。

変寝夢さん

a)苦勞したが、突如後ろ2手が閃き解決。
b)左辺からの王手が先と決め打ってなかなか一筋縄ではいかなかった。

こういった、利きが超強烈な駒を使用した短手数物はもっと開発されてもいいような気がする。ローズ、アマゾン、ナイトライダー、

アマゾンライダー等は持駒使用可ルールの方が性能が活きると思う。

たくぼんさん

bが先に浮かびました。
aの詰上りは浮かびにくかった。

はなさかしろうさん

隅は角で。角と来れば次は飛で。
飛は縦横が考えどころでした。

一乗谷酔象さん

4手で詰むんですね。nQは諸刃の剣。

■ 128-6 たくぼん氏作 (正解3名)

強欲詰 85手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
			歩	歩	王			龍	二
	香		香	ス		馬	ス		三
桂	科	圭	香	と			ス		四
			歩	歩		角	ス		五
	歩						ス	歩	六
		銀	と	と	と	と	飛		七
				桂				歩	八
銀	銀	と	と	と	と			香	九

持駒 なし

【ルール】

・強欲

駒を取る手を優先して着手を選ぶ。

【解答】

53 と 同全 同角成 同玉 54 歩 同玉
66 桂 同歩 65 銀 同玉 66 馬 74 玉
56 馬 64 玉 46 馬 63 玉 45 馬 62 玉
44 馬 72 玉 54 馬 83 玉 65 馬 94 玉
76 馬 同桂 95 歩 同玉 96 歩 同玉
97 歩 同玉 98 銀直 96 玉 87 銀 同玉
76 銀 86 玉 78 桂 同金 87 銀 同玉
78 銀 同玉 68 金 同金 同と 同玉
58 金 同金 同と 同玉 48 金 同金
同と 同玉 38 と 同玉 29 金 27 玉
18 金 16 玉 17 歩 同と 同金 15 玉
16 歩 同と 同金 14 玉 15 歩 同と
同金 13 玉 14 歩 同と 同金 12 玉

13 歩 同龍 同金 21 玉 11 飛 同玉
12 金 まで 85 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
								金	二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
								香	九

持駒 なし

【作者のコメント】

手順はは3つの趣向を繋げただけではありますが、協力詰でない手順を感じることができるかと思います。

【解説】

まずは最初に注釈を。作者名と初形を見て、強欲協力詰と決めつけてはいけません。受方は詰まないように抵抗します。その特徴がよく出ているのが最終3手。普通詰将棋では全然逆算できない詰上りですし、強欲協力詰だと余詰が生じてしまいます。この最終3手だけでも作者が協力詰にしなかった理由が分かるでしょう。

本局は趣向手順がたっぷり盛り込まれた煙詰です。45手目から横に進む趣向手順。63手目から縦に進む趣向手順。どちらも心地良く進む素朴な趣向です。しかし本局最大の見所は序盤の不規則な趣向にあります。

それが11手目から25手目まで続く馬の追跡。強欲詰にありがちな駒交換ではなく、馬の遠隔王手に対し、玉が駒を取りながら逃げていきます。66桂・65銀の好手から、馬の遠隔操作で駒を消す手順はとても印象的です。

「同」の少ない強欲詰は好作——本局はそんな傾向を裏付ける良い実例と言えるでしょう。

【短評】

真Tさん

66 桂～65 銀～66 馬～56 馬の流れがなかなか見えませんでした。
そこを超えると馬の楽しい動きからの馬捨

て。と金、金を消していく趣向手順。
最後は飛を捨てて解後感よし。楽しめました。

占魚亭さん

左辺の駒を消す流れをつくるための 66 桂～
65 銀が 3 手 1 組の好手段。
後半の趣向手順も面白く、見事な煙詰です。

■ 128-7 堀内真氏+高坂研氏作 (正解 6 名)

マドラシ協力詰 5 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
				銀					五
									六
							歩		七
								銀	八
								王	九

持駒 飛角

【ルール】

•マドラシ

同種の敵駒の利きに入ると、利きがなくなる。
ただし、玉は除く。

【解答】

99 飛 91 飛 92 角 99 馬 29 角成 まで 5 手
(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛									一
									二
									三
									四
									五
									六
							歩		七
								銀	八
銀						馬	王		九

持駒 なし

【作者のコメント】

大駒の最遠打 3 連発！盤面を広く使った手順は、もし類作などがなければ、それなりに価値があるのではないかと思います。

実はこれ、別な拙作に堀内氏が余詰を指摘され、その余詰順の方を私が抽出して図化したもの。そういう訳で、本来の意味とはほど遠い「合作」なのだが、まあ大目に見て下さい（笑）。

【解説】

双方の飛最遠打から始まる強烈な手順。その目的は何か、なぜこの位置なのか、この 2 つを確かめましょう。

マドラシで走り駒の対を作り、間に駒を打つ作品はよくあります。これを「マドラシ対」と呼びましょう。

飛の遠打で「マドラシ対」を作る作品には、神無太郎作「飛行艇」(Kマドラシばか自殺詰 36 手、「第 12 回神無一族の氾濫」③ : http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr12_r.htm) という名作があります。本誌でも WFP55-7(上谷直希作、キルケマドラシ 5 手) で飛の「マドラシ対」が使われています。

前者の「マドラシ対」の目的は歩の消去、後者の「マドラシ対」は対を解除した駒が「マドラシ対」を作るため(つまり「マドラシ対」を作るための「マドラシ対」)でした。

本局で「マドラシ対」を作るのは、馬を作るためです。「成駒を作る」という目的は突飛なものではありませんが、渋い狙いも派手な手順で実現すれば効果は抜群です。

話が逸れますが、「マドラシ対」は超電導の「クーパー対」にちなんで、筆者が勝手に使っている用語です。利きがゼロになるマドラシの石化状態を、電気抵抗がゼロになる超電導状態に喩えています。

閑話休題。

目的が馬を作ることは分かりましたが、それだけなら、マドラシ対を作るのは 8 筋でも構わないように思えます。29 馬を作るだけなら、92 角でなく 83 角でも良いはずですが。

以下の紛れを考えてみましょう。

89 飛 81 飛 83 角 79 銀 29 角成 まで 5 手？

この手順だと最終手に対し 28 馬とする受け

があります。初手の飛の位置が 99 だったのは、馬を移動させるためだったのです。取られる位置への飛の遠打は花沢正純氏のばか詰の古典的名作を思い出させますね。こうして 99 飛が定まれば、29 馬を作るための 92 角が定まり、芋づる式に 91 飛も定まります。

「成るための角遠打」というと、まるで初心者向けの詰将棋みたいですが、本局はそれを飛・飛・角の遠打連発に繋げています。素朴な狙いでも、華麗な手順にアレンジできることを示す良い実例でしょう。

【短評】

真Tさん

最遠打！
4 手目の限定の仕組みがいいですね。

占魚亭さん

飛角の最遠打がビシッと決まっていますね。

変寝夢さん

懐かしい雰囲気の手順。仕方ないとはいえ、1 8 銀 2 7 歩は 1 枚で済ませたかった。

たくぼんさん

55 馬を移動させないと馬ぶつけがあるので初手が光る 1 手。

はなさかしろうさん

なるほど～これは楽しいです。

■ 128-8 高坂研氏作（正解 6 名）

天竺協力自玉スタイルメイト 2 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角
※透明駒:攻方0枚、受方1枚

【ルール】

•透明駒

位置・種類が不明の駒。
着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83 号「透明駒の紹介」

•天竺

玉の利きが王手をした駒の利きになる。

【解答】

11 角 - X (=22 飛) まで 2 手

(最終形)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									角
									歩

持駒 なし

【作者のコメント】

当初の想定手順は「角の王手に対して香合で詰（この香を角で取るとセルフチェックの反則!）」だったのだが、よく考えてみるとその場合、最初の角の王手がそもそもセルフチェックになってしまう（笑）。でも何とかこの筋を活かせないかと、あれこれ試行錯誤した末に辿り着いたのがスタイルメイトという訳。もっと別な表現もあると思うが、私には見つけることが出来なかった。

【解説】

ここから 2 題は透明駒と性能変化系ルールの組み合わせ。作者は本作品展でこの路線の様々な作品群を見せてくれていますが、本局は珍しくゴールが「詰」ではなく「スタイルメイト」に設定されています。

解答者にとってこれは大きなヒントです。12 歩を消すような筋は実現しそうにないので、初手 11 角は自然に指したくなる手です。一見するとこれは自玉に王手を掛ける反則になりそう

ですが、それが透明駒の所在を特定する手掛かりとなります。

11 角が反則にならないためには、24 が埋まっていなければなりません。透明駒は受方に1枚あるだけですから、受方透明駒は 24 に存在することが確定しました。

つまり初手は擬似反則によって透明駒の情報を得る手筋だったわけですね。

判明したのは位置だけですが、駒種も絞られます。初手が反則でないよう、24 にある透明駒は斜めに利かない駒に限られるのです。

2 手目の受けは透明駒の着手。透明駒は1枚しかないで、これで 24 の駒が 22 に移動合したことになります。既に龍ではだめだと判明しているので、この移動ができるのは飛のみ。これで駒種と位置の両方が確定し、透明駒は 22 飛の可視駒に戻ります。

もちろん 22 飛は取れません。取ると自玉に王手を掛ける反則になるからです。角は動けないため 12 歩も動けず、攻方玉も動けないのでこれでステイルメイトの達成です。天竺ルールの特徴を利用して、わずか 2 手で透明駒の移動合（それも取れそうで取れない移動合）を実現した巧妙な作品です。

12 歩は 11 角を誘う配置なので、できれば省きたいところですが、これがないと「22 角 同 X」の余詰が生じます。簡素に仕上げることを考えればやむを得ない配置でしょう。

【短評】

真Tさん

透明駒の着手で移動合と分かるのが面白い。

占魚亭さん

11 角が合法手であると主張して透明駒の位置と駒種を確定させるわけですね。

変寝夢さん

1 2 歩の意味は余詰消し？かな。

1 2 歩 1 9 玉 2 9 銀 5 5 玉の様な構図で行いたい、無理か。

☆初手を遠打にしたいということですね。

単純に構図を広げると透明駒の位置が 2 筋に確定できないので、ステイルメイトになりません。何か巧い仕組みを考える必要があります。

たくぼんさん

左下からは非限定になりそうだし、移動合 44 飛だと 25 銀が浮くし、やっぱり 11 角となりますね。

はなさかしろうさん

12 に歩があると 11 に打ちたくなります。

一乗谷酔象さん

角打が反則にならないように。

■ 128-9 高坂研氏作（正解 4 名）

点鏡協力詰 3 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					銀	王			二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛
※透明駒:攻方 1 枚、受方 0 枚

【解答】

89 飛 32 玉 12 飛成(X=21 角) まで 3 手 (詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							角		一
					銀	王	龍		二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

手順中に駒の位置と種類が簡単に判明する点鏡。透明駒との相性は良い筈なのだが、良す

ぎて余詰が多発することもしょっちゅう（笑）。本作もかなり読みを入れた心算だが、完全の自信は全くない。

【解説】

遠打と大移動が主題の華麗な作品。

前局で透明駒の位置を特定するのに用いられた手筋は「擬似反則」（細かく言えば「擬似セルフチェック」）でした。本局では点鏡の性質を利用した「擬似非王手」で透明駒の位置を特定します。

これが点鏡であることを一旦忘れて、平凡な「擬似非王手」を試してみましょう。例えば「41銀成 21玉 31飛」という手順です。初手41銀成は王手に見えませんが、これが王手であることから、二段目に攻方の飛（または龍）がいることを主張するのです。

ここでルールが点鏡であることを思い出しましょう。すると、79に金以外の駒を打てば受かることが分かります。要は単純な詰筋では点鏡特有の受けがあるということです。そもそも初手に点鏡の効果を利用していない時点で、作意っぽくありません。同じ「擬似非王手」にしても点鏡特有の性能変化による王手を掛けたいものです。初手89飛はその期待に応える手。そっぽに打ったように見える手ですが、21に攻方透明駒が存在することを主張するわけです。

また、点鏡特有の受けを消すことを考えると、必殺技「両王手」が有力です。単独の駒での王手だと対称位置に駒を打つ受けがありますが、両王手なら1枚の駒打でそれを防がれることはありません。

それを実現するのが3手目12飛成の大移動。これで21にいた透明駒が角だったことを主張するわけです。玉が盤端に居ないので不安な形ですが、銀との連携で綺麗に捕まっています。

性能を本来の姿に戻して、本来の性能のままでは実現できない両王手を実現するという構成が見事です。

本局は最初から透明でない21角を配置しても完全作になります。最初から見えていれば、ほとんどの人が一目で解けるはずですが、透明駒を使うことで多くの紛れと推理要素が加わっているのです。

【短評】

真Tさん

派手な飛の動きで両王手。気持ちいいです。

占魚亭さん

必殺の両王手。

41銀不成の筋と思っていましたが、それだと受けられることに気付き考え直しました。

変寝夢さん（※誤解）

1 2 飛、3 1 玉、3 2 銀成（+ 6 8 飛）まで3手

1 4 飛（+ 9 6 桂）や3 4 飛（+ 7 6 桂）に惑わされた。

飛を打つ手を考えただけでも、いろんな手があるんだなあ。

たくぼんさん

透明駒にすることによって両王手の詰上りが予想し難くなっていて上手いと思う。

はなさかしろうさん

両王手のモデルメイト。

銀にフィットする形が美しい。

■ 128-10 変寝夢氏作（正解3名）

協力詰 15手

										一
										二
										三
								飛		四
								科	科	五
									歩	六
								王		七
								銀		八
										九

攻方持駒 鷲

受方持駒 なし

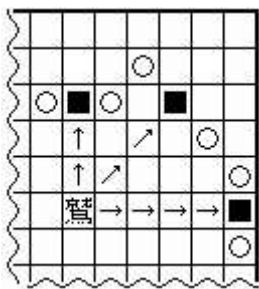
※鷲:Eagle

【ルール】

•Eagle（鷲）

フェアリーチェスのEagle。

グラスホッパーの変種で、Queenの利きの方向にある駒に到達した後、進行方向に対し90°曲がった場所に着地する。



(○が鷲の利き。■は敵または味方の駒。)

【解答】

94 鷲 27 玉 25 鷲 28 桂成 36 鷲 38 桂成
16 鷲 18 玉 47 鷲 29 玉 49 鷲 18 玉
29 鷲 17 玉 27 金 まで 15 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
							歩		四
									五
									六
							金	玉	七
							手	手	八
								鷲	九

攻方持駒 なし
受方持駒 歩

【作者のコメント】

E a の単騎追いで何が出来るかなと作ってみました。

【解説】

目標は金の入手。Eagle (鷲) は跳躍台を必要とする駒なので、盤上に転がる「飛び石」を伝って金を手に入れねばなりません。

その第一歩が初手 94 鷲の限定打。直接的には 49 金を跳躍台に使う王手ですが、次に 25 歩を跳躍台にするために、この地点に遠打するわけです。

鷲は王手の仕方に癖がありますが、応手にも癖があります。例えば 4 手目 28 桂成。これは跳躍台を撤去する「開き応手」です。同様に 6 手も 38 桂成の開き応手を行い、ようやく 49 金に届く跳躍台を設置できます。

以下は入手した金でとどめ。フェアリーでも「金はとどめに」の格言は有力です。

本局は設置された「飛び石」が不動ではなく、

「飛び石」自体が動いて目的地への道を作り出します。桂 2 枚を成る手順が詰上りの想定を困難にしていますが、鷲の動きに慣れさえすれば面白い作品だと思います。

【短評】

真Tさん (※無解)

鷲の動きについていけませんでした。

占魚亭さん

桂 2 枚を成らせ、それらを利用。なるほど、上手い。

たくぼんさん

玉の周りに駒を多く置かないとなかなか詰型にならず 94 鷲~25 鷲に辿り着くまで時間がかかりました。47 鷲がちょっとした盲点。



■ 128-11 くろねこ氏作 (正解 4 名)

協力自玉詰 22 手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
		科	金	金	金	と			四
		歩	歩	歩	香	科	銀		五
		銀		歩	王		と	歩	六
		香	歩	手		歩	龍		七
角			と	王	歩	香			八
		銀		金		桂			九

持駒 なし

【解答】

57 と 同角生 68 桂 同香生 89 角 78 歩
同角 67 桂 同角 同歩生 48 桂 同銀生
46 と 同玉 47 歩 同飛生 37 龍 56 玉
47 龍 同桂生 66 飛 同桂 まで 22 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			金	金	金	と			四
		歩	歩	歩	香		銀		五
	銀		科	王				歩	六
		香	歩	科					七
			皇	王	爵	香			八
		銀		金		桂			九

持駒 なし

【作者のコメント】

6種不成です。それだけです。

【解説】

受方6種不成。難しくはありませんが、ちゃんと考え所があります。

問題は「46 と」の決行時期。17 龍の活用のため、どこかでこれを実行せねばなりません。この手は 3 手目以降いつでも実行可能ですが、急いでこの手を指しても何も起きません。事前に歩を入手しておく必要があります。

歩の入手には左辺の角を活用します。3 手目先に 68 桂とするのはこのためです。角を歩桂と交換した後で、改めて 48 桂とし、飛筋を通せば準備完了。ようやく「46 と」が実行できます。

後は歩で飛を呼び、玉を元の位置に戻してからその飛を取ります。いきなり飛を取らないのは玉を 67 地点に利かすためですが、この一呼吸を入れるため、16 手目 47 同飛が不成に限定されるのが巧いところです。

手順の流れを追うと、受方の6種不成はすべて「攻方玉に王手を掛けないため」で統一されています。そのせいか、手順に無理がなく、自然に6種不成なってしまったという感さえ抱かせます。

解説に当たって前例について調べてみたのですが、純粋な協力自玉詰では受方6種不成が見つかりませんでした。協力自玉詰はこの条件を作るのに向いているはずなので、やや意外です。

以下には参考作品として、ばか詰（協力詰）と最悪詰での受方6種不成を紹介します。いずれもそのルール下での最短手数作品です。協力自玉詰だと 12 手でできるかどうかの問題です

が、果たしてどうでしょう？

【参考図1】協力詰の受方6種不成
小林看空『ブレアデス』
ばか詰13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
角									四
		ス	と	と	と				五
			皇	銀	科				六
		ス	歩	王	飛				七
		銀		科	皇	皇			八
		飛		王	爵				九

持駒 金3 銀 桂

(九州G作品展フェアリー別館,2006年4月,
2006年上期Fairy TopIX短編部門2位)

(参照：<http://cavesfairy.g1.xrea.com/pub/qgfairy/07.htm>)

【参考図2】最悪詰の受方6種不成
真T作

最悪詰13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
		科	角						五
				銀	皇				六
		龍	歩	銀					七
		歩	爵	王		王			八
		桂	飛	皇	桂				九

持駒 金4

(Web Fairy Paradise 146号,
2020年8月,WFP124-6)

【短評】

真Tさん

6種生。

37 龍から 47 龍が見えづらかったです。

占魚亭さん

六種不成。自玉の周りを不成で移動させた駒で埋めていくところに面白味。

たくぼんさん

6種不成ですね。
手が狭いので難しくはないのですが上手く構成されていて好感が持てます。

一乗谷酔象さん

収束 47 同飛成が非限定かと思ったら同龍以下 2 手長い。37 龍から 1 路ずらすのが妙手順。6 種不成お見事。

【総評等】

真Tさん

前回はあまり解けていなかったの、ぎりぎりまで考えようと思っていたら、気づいたら締め切りを過ぎていました。

☆解答の送り忘れがなければ真T氏が昨年度の解答王だったかもしれませんね。でも、創作・解答両面での活躍は目を見張るものでした。今年もよろしくお祈りします。

占魚亭さん

久しぶりの全問解答。透明駒 2 作がだと嬉しいですが、さて……？

変寝夢さん

バラエティに富んでいて面白い作品群でした。

たくぼんさん

最近の中では難易度が低かったと思いますが、これくらいがちょうどいいと思ったのは氾濫の解答の後だったからかな。

☆第 125 回 WFP 作品展でも少し触れましたが、さんじろう氏より「騎王双裸玉協力詰、持駒歩のみ」の調査結果の資料をいただきました。後日 Onsite Fairy Mate の「資料集」のページで公開する予定です。第 125 回作品展で登場したのはその中の 2 作だけですが、他にどんな作があるのか、ぜひ自身の目でご確認ください。

☆昨年度 WFP 作品展の解答成績をまとめた資料を以下に示します。(既に Onsite Fairy Mate の「WFP 作品展鑑賞室」に収録しているのと同じものです。)

見事解答王の座に輝いたのはたくぼん氏。これで 3 年連続の首位獲得です。短い期間に集中して力を発揮することはできても、長年にわたって優れた成果を出し続けることは容易ではありません。継続は力なり。長年にわたる活躍を讃えたいと思います。

2020年WFP作品展解答成績

氏名	118回	119回	120回	121回	122回	123回	124回	125回	126回	127回	計
たくぼん	11	11	5	10	11	13	12	12	14	9	108
真T	12	11	7	10	11	12	12	12	15		102
占魚亭	9	8	8	6	7	9	9	9	8	9	82
はなさかしろう	7	4	7	7	11	11	10	6	6	6	75
一乗谷酔象	6	3	1	4	3	7	10	9	14	8	65
変寝夢	4	2	2	5	4	4	9	5	9	2	46
北村太路					6	7	6	3	5		27
神在月生					5	8	4	5	4	1	27
青木裕一				7			7				14
kz			3	3							6
暇人EX				1		3					4
忍者うどん				3							3
茶園									3		3
計	49	39	33	56	58	74	79	61	78	35	562

以上

推理将棋第137回出題

担当 Pontamon

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第137回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの? - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2021年4月10日までに TETSU まで

(omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第137回解答」をお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント! 1題でも解けたらぜひご解答ください。

今月の初級は渡辺さんからウォーミングアップに最適な94問題の易問。

中級はぬさん作で、10手目の反則着手までの手順を解答していただきます。

上級はミニベロさんからの18手作です。同じ駒を指し続けるのは受け側ではありません。

■ 本出題

137-1 初級 渡辺秀行 作 嘘吐き 94 問題 9 手

4つの条件を満たす手順はありません。一番怪しい条件を外せば正解するはず。

137-2 中級 ぬ 作 名人に香を引く? 10 手

反則は投了なので記録的には9手ですが10手目の反則の手まで回答してください。

137-3 上級 ミニベロ 作 墨守 18 手

後手の9回の着手は全て同じ守備駒。防御は最大の攻撃なり?

137-1 初級 渡辺秀行 作 嘘吐き 94 問題 9 手

「新人の対局を3局観戦したという4人から話を聞いたところ、全て9手で詰んで、3局とも同じ着手があったしい。観戦者 a, b, c, d の4人から聞いた着手がこのメモなんだ。4つの着手全てがある手順はないから誰かが嘘を言っているのかなあ」

メモ

a. 5 手目 同馬

b. 6 手目 72 銀

c. 7 手目 46 歩

d. 8 手目 74 歩

どれかの手が無く、残り3手を含む手順を解答してください。

(条件)

- ・ 9 手で詰み
- ・ 以下のうち3つが必要な条件で1つが不要
 - a. 5 手目 同馬
 - b. 6 手目 72 銀
 - c. 7 手目 46 歩
 - d. 8 手目 74 歩

137-2 中級 ぬ 作 名人に香を引く? 10 手

「あいつ、名人に香を引いて10手で詰ましたって言ってたけど本当?」

「初手は普通に歩の手だったけど、1回目の成る手の1手前の桂の手と2回目の成る手の1手前の飛の手を見る限り先手は将棋の名人じゃないね。あと、『香を引いて詰ました』とは文字通り香を真後ろに動かして相手玉が詰んでいる局面にしたんだよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 10 手目に香を真後ろに動かして先手玉詰みの局面を作って反則負け
- ・ 初手は歩の手
- ・ 1 回目の成る手の1手前は桂の手
- ・ 2 回目の成る手の1手前は飛の手

137-3 上級 ミニベロ 作 墨守 18 手

「攻めてはいかん。自陣から出てはいかんぞ。使う駒は一つだけで、

引く手を2回指せば勝てるであろう」

「そんなことで本当に勝てるのですか?」

「敵(先手)の歩の手は最初だけで、成る手もない。18手で詰みじゃ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 18 手詰
- ・ 後手の着手はすべて自陣内で、一つの駒だけを動かし「引」の手を2回指した ※
- ・ 歩の手は初手だけ
- ・ 成る手なし

※棋譜に「引」の付く指し手です。

推理将棋第135回出題解説

担当 Pontamon

余詰を出さずに順調だった 2020 年後半が嘘だったかのように 2021 年の年賀推理の第 1 3 5 回は余詰を大量生産してしまいました。作者ならびに解答者の皆様、粗検大変申し訳ありませんでした。

年賀作品の過去例では 6 作なら 1 回、8 作なら 4 作ずつ 2 回に分けられていました。1 回での 8 作は多過ぎたようで解答の集まりが悪かったのですが、15 名からの解答をいただきました。

1 3 5-1 初級 けいたん 作 馬では詰まない 9 手

「2021 年の指し初めは 9 手で詰みか」
 「最終手は角不成で詰んだが、同じ地点への馬では詰まなかったね」
 「最終手は桂を取ったな」
 「不成は 1 度だけだね」
 「11 の手もあり、2021 年の年賀に相応しい対局だった」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 9 手で詰み
- ・ 最終手は角不成で詰んだが、同じ地点への馬では詰まなかった
- ・ 最終手は桂を取った
- ・ 不成は 1 度だけ
- ・ 11 の手があった

出題のことば (担当 Pontamon)

ソッポへではなく同じ地点への馬着手では詰まずツノで詰める。

作者ヒント

桂は跳ねたん？ (けいたん)

締め切り前ヒント

桂を取る最終手は、初期配置のまま動かなかった 21 の桂を角で取ります。

余詰修正

最後の会話の冒頭の「でも」を消して「11 の手もあり」に修正。

「11 の手があった」の条件追加

推理将棋 1 3 5-1 解答

▲76 歩、△34 歩、▲22 角成、△42 玉、▲11 馬、△32 玉、▲12 角、△42 飛、▲21 角不成まで 9 手

(条件)

- ・ 9 手で詰み
- ・ 最終手は角不成で詰んだが、同じ地点への馬では詰まなかった (9 手目 ▲21 角不成)
- ・ 最終手は桂を取った (9 手目 ▲21 角不成)
- ・ 不成は 1 度だけ (9 手目 ▲21 角不成)
- ・ 11 の手があった (5 手目 ▲11 馬)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	藤	金		玉	藤	角	馬	一
					飛	玉			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 桂香

参考 1 図は 2 枚角の手筋で後手玉を詰めたものです。不成は最終手の 1 回だし、最終手の ▲43 角不成の代わりに ▲43 馬では 51 の退路があるし、桂も取ったので解けたはず。年賀作品としては 21 年の 21 地点に牛のツノの角着手もある。しかし、この手順では正解にはなりません。桂を取るのは最終手でなければいけないからです。

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
皇	科	爵			季	爵		皇
	飛			季	王			
歩	歩	歩	歩	歩	角	馬	歩	歩
						歩		
		歩						
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
							飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

持駒 桂歩

参考1図：▲76歩、△34歩、▲22角成、△33桂、▲同馬、△52玉、▲21角、△62金、▲43角不成 まで9手

それではと、最終手で33の桂を角不成で取れるように馬と角を一筋ずらした詰み形を考えてみたのが参考2図です。最終手の▲33角不成で桂を取り、不成は1回なのですが、▲33角不成の代わりに▲33馬でも詰んでしまうので条件をクリアできていませんでした。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1
皇	科	銀			季	爵		皇
	飛			季	王			
歩	歩	歩	歩	歩	歩	角	馬	歩
						歩		
		歩						
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩
							飛	
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香

持駒 桂歩

参考2図：▲76歩、△34歩、▲22角成、△33桂、▲15角、△42玉、▲23馬、△52金右、▲33角不成 まで9手

参考1図も参考2図でも手順中に△33桂の手がありました。桂を跳ねずに21に居るままの桂を9手目に角不成で取って詰む形を考えて

みます。

▲21角不成で詰むということは、玉は32に居るはず。また、21地点は角筋ではないので、先手は後手の角を取ってから打ったはず。32に玉が居て21角不成ができるのであれば、角は12へ打ったはず。後手角の入手を考えると、初手から▲76歩、△34歩、▲22角成になります。不成は1回だけで最終手での角不成なので3手目の角着手は角成です。

玉は32へ移動しなければいけないので、4手目は△42玉。33地点が空いているので先手の駒で抑える必要がありますが22に馬が居るままでは△32玉ができません。そこで5手目からは▲11馬、△32玉、▲12角です。玉の退路として残るのは42地点ですが、△42金や△42銀では玉の退路が置き換わっただけになるので退路封鎖の協力手は△42飛です。△42銀の場合、最終手が▲21角成であれば詰むのですが最終手は▲21角不成なので8手目の△42飛が確定されます。

ミニペロさんから指摘があった元条件での余詰手順は下記になります。△52金右ではなく△52金左の手を見逃していました。粗検、申し訳ありませんでした。

▲76歩、△34歩、▲22角成、△52金左、▲23馬、△33桂、▲88角、△42玉、▲33角不成

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAOさん(双方解)「11と21を使ってすっきり。△52金左。馬で取ると詰まない形があった。」

■9手作で余詰を出しては担当失格、トホホ。

ミニペロさん(双方解)「最終手に条件が集約しているようなので、整理できそう。」

■「最終手は初の角不成で桂を取った」で少しはまとまるかな？最終手までに角以外での不成があっても良いことになるけど。

諏訪冬葉さん「桂馬は 33 で取ると思っていました。」

■ 33 の桂を取ると失敗になるはずでしたが△ 52 金左を見逃していました。

飯山修さん（双方解）「桂を取る = 33 が記憶に染み付いているので余詰解答者が多いでしょうね」

■ 解答者の 3 分の 1 の方々から双方解をいただきました。

中村丈志さん「つい 2 二角不成とするところでした。」

■ 「不成」に限らず、条件をクリアしたくて、チャンスがあると早まってしまうことがあります。

小山邦明さん「馬と角という条件で最終手をうまく限定できていると思いました。」

■ 強い駒だと詰まないという不条理感。角成では詰まず角不成で詰むと誤解すると大変なことに。

べべ&ぺぺさん「桂を取るのが、最大のヒントでした。」

■ 素直に初期配置の桂を取りに行くと正解へつながりました。

ほっとさん「条件が多くて注意が必要。」

■ 条件が多いと情報が増える一方で手の制限が増加するので、痛し痒し。

占魚亭さん「「同じ地点への馬では詰まない」という条件で詰み形が見えました。」

■ 馬が動いてしまうと利きが外れる地点へ玉が逃げることができるという推理ができて、詰み形が見えるには閃きが必要。

ジェシーさん「詰み形は何となく見えました、9 手でどうやってやるんだろう、と悩みました。」

■ 先手は 5 手しかないのに、馬を作る、角を取って打って不成の手を指す。角道もあける必要があるとなると役割を兼ねる必要が出てきます。

原岡望さん「素直な作品」

■ 9 手だとあまり凝った手順はなさそうです。

RINTARO さん（双方解）「最初に余詰手順が見えたが、本手順も分かりやすい。」

■ 最終手が角不成なので、その駒を支えるには... と考えると見えてきます。

山下誠さん「1-1 の着手の追加条件が大きなヒントになりました。」

■ ▲22 角成からの▲11 馬が見えやすくなりました。

はなさかしろうさん（双方解）「最初、▲7 六歩△3 四歩▲2 二角成△4 二玉 ▲2 三馬△5 二金左▲8 八角△3 三桂▲同角不成まで を考えていました。11 に着手すると桂が跳ねられませんね。」

■ 桂が跳ねた後の 21 地点は 11 の馬がカバーしていますが、▲33 角不成で 42 の玉に王手を掛けても 32 地点が空いてしまいます。

正解：15 名

NAO さん ミニベロさん 諏訪冬葉さん

飯山修さん 中村丈志さん 小山邦明さん

べべ&ぺぺさん ほっとさん 占魚亭さん

ジェシーさん 神在月生さん 原岡望さん

RINTARO さん 山下誠さん はなさかしろうさん

1 3 5-2 初級 Pontamon 作

十ノ一

10 手

「指し初めの「くノ一」対決は、棋譜に同角成 2 回と馬寄 1 回がある 10 手で詰めました」

「2021 年に相応しく、2 と 1 か」

「推理将棋風に言えば、10 手詰 1 条件です、今年の十二支にもなる「十ノ一」です」

「馬の条件があるし「十ノ一」は午のことだね。」

でもそれだと5年早いよ」
「ええ～「十ノ一」と言えば牛でしょ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 10手で詰み
- ・ 棋譜に同角成2回と馬寄1回

出題のことば (担当 Pontamon)

馬寄の棋譜を実現できるように馬2枚を配置する必要があります。

作者ヒント

馬2枚を作ったら最終手 (Pontamon)

締め切り前ヒント

寄が付く手を指せる馬2枚の配置はいくつかあるが、今回は77と78の馬。

▲76歩、△34歩、▲77角、△同角成、▲68金、△69角、▲78銀、△同角成、▲48銀、△68馬寄まで10手

(条件)

- ・ 10手で詰み
- ・ 棋譜に同角成2回と馬寄1回 (4手目△77同角成、8手目△78同角成、10手目△68馬寄)

詰上り図

後手の持駒：金銀

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
		歩							五
歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	歩	歩	六
		銀		銀		飛			七
香	桂		玉	金		桂	香		八
									九

持駒なし

馬寄の手を指すためには馬を2枚作る必要があります。後手は△34歩で角道を開けたら、4手目の角成で先手角を取って1枚目の馬を作り、

6手目にとった角を打って、8手目に成って2枚目の馬作成。最終手は"馬寄"の手を指すことになるので、解図は簡単そうです。

参考1図はこの方針で指し進めて10手で詰ました図になります。最終手が△78同馬上では詰みならず、馬寄が必須の手順になっているので「なるほど」と納得してしまうと誤答になります。同の手は2回なので合っていそうですが、同は2回とも角成の時というのが条件でした。

参考1図

後手の持駒：銀桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	銀	金	王	金	銀	科	皇	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩	銀	歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
		銀		金			飛		八
香			玉		金	銀	桂	香	九

持駒なし

参考1図：▲76歩、△34歩、▲58金左、△88角成、▲69玉、△68角、▲77桂、△同角成、▲78銀、△同馬寄まで10手

4手目の1回目の角成の時に"同"が付く手は、▲77角、△同角成しかないので、あとは6手目に角を打って、7手目の先手着手で動いた駒を同角成で取ればいだけです。そこで、▲76歩、△34歩、▲77角、△同角成で進めてみると、4手目の△77同角成が王手になっているため、玉が逃げるか68地点で合い駒することになります。(▲同桂で馬を取ってしまうと馬寄の手が指せなくなります) どれにしようかと考えてみると、8手目に同角成の手を指す手順が中々見つからないことに気付きます。5手目から▲56玉、△59角、▲68銀、△同角成では王手になるので▲48玉で逃げれると詰みがありません。5手目が▲68飛だと角を何処へ打っても8手目に同角成ができません。参考2図では5手目を▲68銀として7手目に金移動ができるスペースを作り、6手目から△88角、▲79金、△同角成、▲48銀、△68馬引で詰ますことはで

きましたが最終手は△68 馬引か△68 馬上のどちらかになり、馬寄を実現できませんでした。

参考 2 図

後手の持駒：金銀

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	飛	王	王	飛	桂	香		
二		飛								
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八			歩		銀		飛			
九	香	桂			玉	金		桂	香	

持駒 なし

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲77 角、△同角成、▲68 銀、△88 角、▲79 金、△同角成、▲48 銀、△68 馬引 まで 10 手

4 手目の王手の応手として玉移動、▲68 飛、▲68 銀はどれもうまく行かないようです。残る手は▲68 金での合いです。金移動で空いた 69 地点へ 7 手目に移動できる駒は玉しかないのので、6 手目の角打ちはこの空いた 69 地点になります。そうすれば 8 手目の同角成を念頭に入れると 7 手目に可能なのは▲58 金上、▲58 飛、▲78 銀の 3 手があります。しかし、△58 同角成が 8 手目だと、その馬を取るしかないのので、7 手目の正解手は▲78 銀で 8 手目に△78 同角成で 2 枚目の馬を作ると馬は 78 と 77 の縦並びになります。先手玉は居玉のままですので、最終手▲68 馬寄で詰むための 9 手目の協力手▲48 銀を指して玉の逃げ場を塞ぎ、▲68 馬寄での詰みになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者) 「「くノー」は書き順通りで「女」、書き順なら「十ノー」ではなく「ノー十」で牛か午になるので、馬だらけの会話ですが無理矢理の牛の年賀条件」

NAOさん「馬寄って意外と難しい。」

■馬寄は 5 手でできるので 9 手詰でも馬寄の手はありますが、2 つの馬を作る手をどちらも同が付く手にするのが少しやっかい。

ミニペロさん「十ノーが牛とは旨い！」

■無理矢理の牛。

諏訪冬葉さん「中間ヒントどおりでした。」

■はい、馬を 2 つ作った次の手は最終手しか残ってません。なので最終手が馬寄の手。

飯山修さん「1 回目の同角成は 4 手目でないと間に合わないので必然手順の連続。初級に相応しい問題」

■4 手目、しかも 77 でしかできない 1 回目の同角成。

小山邦明さん「棋譜の表記だけで限定できている点がすばらしい。」

■実現し難い棋譜を複合させると限定し易くなります。

ベベ&ペペさん「4 手目までは必然。問題は 2 枚目の馬の作り方でした。」

■最終手の馬寄を見越して、何処に 2 つ目の馬を作る／作れるのかという問題でした

ほっとさん「これが 1 条件というのは無理がある気がするが。」

■2 条件を並列記載して 1 文にする裏技？私はリンゴを買った。私はイチゴを買った。⇒私はリンゴとイチゴを買った。

ジェシーさん「「馬寄」という手を作るだけでも、結構大変ですね。」

■作り難い局面だからこそ条件を少なくできません。出題中の 136-3 が良い例。

原岡望さん「こじ開ける攻め」

■角の打ち場をこじ開けて、その駒を馬寄で取

って詰みにする。

RINTAROさん「同角成は4手目8手目なので、
ほぼ手が限定されている。」

■▲78銀、△79角、▲68金、△同角成では王
手になってしまい、▲48玉を△78馬寄や△67
馬寄では詰められない。そもそも4手目の△77
同角成が王手なので5手目▲78銀はできない。

山下誠さん「2度目の角の打場所を考える問題
でした。」

■6段目で同角成はできないので、8段目で2
枚目の馬を作るが角の打ち場所が無い。先手の
協力が必須。

はなさかしろうさん「▲6八金に△6九角がび
ったりでいい感じ。」

■5手目は王手の応手なので、必然の流れの▲
68金に△69角からの▲78銀、△同角成。

正解：13名

NAOさん ミニベロさん 諏訪冬葉さん
飯山修さん 小山邦明さん ベベ&ペペさん
ほっとさん ジェシーさん 神在月生さん
原岡望さん RINTAROさん 山下誠さん
はなさかしろうさん

135-3 中級 ミニベロ 作
2021年 新年指導対局 10手

「さっき先生に、新年指導対局を飛車落ちで教
わったんだ」

「初手は3筋だったね。この場合は、34歩か
32金か32銀だね」

「1段目の着手は僕の3回だけだったけど、あ
っさり10手目の初王手で詰ましちゃった」

「不成りで取った駒を次の手で打った手があっ
たね」

「丑年だから、勝ったご褒美は牛井らしいんだ
けど、ステーキのほうがいいな」

「丑年ってそういうことなの？ 2021年は
牛にとって受難の年になりそう！」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

手合割：飛車落ち

- ・10手目の初王手で詰み
- ・1段目着手は下手の3回のみ
- ・不成で取った駒を次の手で打った
- ・初手は3筋

※ 飛車落ちですので、上手(平手の後手番側)
から指し始めます

TETSU注) 図面では「先手」「後手」となって
いますが、「下手」「上手」と読み替えてくださ
い

出題のことば (担当 Pontamon)

手合割は飛車落ち。飛があると詰まない詰み
形になるのか？

作者ヒント

どうして平手じゃないの (ミニベロ)

締め切り前ヒント

最終手は31の馬を21へ動かし、51の角と
で後手玉を詰める。合い駒に注意。

出題間違いのお詫び

結果稿の解説を書いている時、出題原稿に「初
王手」が抜けているのに気付きました。

担当の不手際、申し訳ありませんでした。

△34歩、▲76歩、△52玉、▲22角不成、△44
歩、▲51角、△43玉、▲31角成、△52金左、
▲21馬 まで10手

(条件)

手合割：飛車落ち

- ・10手目の初王手で詰み
- ・1段目着手は下手の3回のみ(6手目▲51角、
8手目▲31角成、10手目▲21馬)
- ・不成で取った駒を次の手で打った(4手目▲
22角不成、6手目▲51角)
- ・初手は3筋(初手△34歩)

詰上り図

上手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞	角			馬	皇	
二		遊		丞						
三	歩	歩	歩	歩	歩	王		歩	歩	
四						歩	歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八										
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 銀桂

初手は上手の3筋とのことですが、下手の角を受け入れる準備として角道を開く△34歩で決まりでしょう。

下手だけが1段目の着手を3回指すとなると、2手目の▲76歩、4手目の▲22角不成はほぼ確定しているので残り3手全てが1段目着手になります。

不成で取った駒を次の手で打つという条件があるので、6手目に1段目へ取った角を打てるように上手は3手目か5手目に1段目の駒を動かして、角打ちの場所を作る必要があります。

8手目は4手目で22へ不成で動いた角を1段目へ動かすしかありません。行けるのは11か31になります。

最終手の10手目は8手目で取った駒を1段目へ打つか、8手目が1段目への角成であれば馬を寄る手も1段目着手になります。10手目に1段目へは香を打てないので、駒打ちであれば8手目は▲31角として取った銀を1段目へ打つことになります。銀を打つ地点が空いている必要があります。

10手目が駒打ちで無い場合は、8手目に11か31で角を成った馬を一筋寄る手になるので、▲21馬か▲41馬のどちらかになります。

まとめると、

3手目か5手目に上手は1段目の駒を動かし、その駒があった地点へ下手は4手目で取った角を6手目に打ちます。上手の協力手が1手だと21と81地点は無理ですが、3手目と5手目の2手を掛けることができるので、たとえば3手目△74歩、5手目△73桂とすれば6手目に▲81角も可能。つまり6手目の可能性としては9

筋全ての1段目への角打ちが可能。

8手目は▲11角成か▲31角成のどちらか。(10手目が駒打ちなら31角で成・不成は不明。上手の玉位置によって決まるのか?)

10手目は8手目に取った銀を1段目へ打つか、▲21馬か▲41馬の3択。

下手の着手だけを考えると①の9通りと③の3通りの積の27通りになるので総当たりで解図することができそうに思える。

参考1図は、8手目に▲31角成で取った銀を31の馬の支えで▲41銀と打つ手順ですが、王手を掛けられた52の玉の退路として51が空いているので詰みません。

参考1図

上手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	丞		銀	馬	科	角	
二		遊		丞	王				皇	
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八										
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 なし

参考1図：(手合割：飛車落ち) △34歩、▲76歩、△12香、▲22角不成、△52玉、▲11角打、△51金左、▲31角成、△62金左、▲41銀まで10手

参考1図では▲11角と打った角が何も仕事をしていないので、この▲11角を使うため、10手目を銀打ちではなく、8手目に31角成で成った馬を▲21馬として43の玉へ王手する手順にしてみたのが参考2図です。これだと11へ打った角が33へ利いているので△33玉で王手をかわすことはできませんが42や52の退路が残ったままなので失敗です。

参考2図

上手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	季		季		馬	角	一
	飛							皇	二
歩	歩	歩	歩	歩	王		歩	歩	三
					歩	歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
									八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 銀桂

参考2図：(手合割：飛車落ち) △34歩、▲76歩、△12香、▲22角不成、△42玉、▲11角打、△44歩、▲31角成、△43玉、▲21馬まで10手

参考2図では、42と52の退路の他に△32金での合いも可能です。もし41の金が△52金左で52へ動いていたら、玉の退路の52地点が減り、△32金の合いもできなくなります。玉の退路としては42地点が残っていますが、眺めていると11の角でカバーしている33地点と玉の退路として残っている42地点の両方をカバーできる▲51角の手が見えます。

つまり、3手目は△12香ではなく51の玉を動かす手であれば6手目に▲51角を打つことができます。初手か△34歩、▲76歩、△52玉、▲22角不成、△44歩、▲51角。この時に王手にならないように3手目は△42玉ではなく△52玉です。先に3手目に△44歩をすると4手目の▲22角不成ができないので、51地点を空ける△52玉は3手目に限定されます。7手目から△43玉、▲31角成、△52金左で△32金の合いができないように協力すれば最終手▲21馬で合い利かずの詰みになります。

なお、手合が飛車落ちではなく109-4のような香落ちだと、下記のような△52飛を使う手順があります。上手の1段目着手条件があるので、本問では余詰みにはなりません。

(手合割：香落ち) △34歩、▲76歩、△42銀、▲22角不成、△52飛、▲31角打、△同金、▲同角成、△62銀、▲41金

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニペロさん(作者)「10手詰なので、本来は89なのですが、飛車落ちにして無理やり21に。

勿論、担当先生の入れ知恵です！」

■4年前のDD++さんの年賀作109-4の『三羽のトリ 11手(香落ち)』で盤面を反転して数字を合わせた前例がありました。

NAOさん「▲21馬と指すための駒落ですね。」

■お察しの通りでした。

諏訪冬葉さん「平手でないのは最終手を21にするためでしょうか？」

■無駄手を入れて11手にするのもイマイチなので手合を駒落ちに。

飯山修さん「52で詰まそうとすると51がカバー出来ない事が判ったので、やむなく3段目で仕留める順に切り替えたらあっさり解決。香落ちでは余詰があるのかしら」

■角落ちと二枚落ち以上でなければ成立します。

小山邦明さん「駒落ちの推理将棋出題とは斬新なアイデアだと思いました。」

■4年前の年賀特集の時にも駒落ち手合がありました。

ベベ&ペペさん「ヒントを見て、なんとか解けました。」

■51角と21馬とでは互いに支えになっていないので、後手玉は離れた3段目地点以遠なのが判明します。

ほっとさん「21の着手にするために飛車落ちにしているのが強引。」

■109-4の左香落ち手合のように、駒落ちに意味がないことを断わった方が良かったかな？

占魚亭さん「手成りで解けました。」

■下手の1段目着手3回が決め手になったと思います。

ジェシーさん「3段目玉に1段目2枚角かなあ・・・という予想は一応できたのですが、両側から挟撃というのが盲点でした。解けそうで解けない難問でした。」

■▲22 角不成で取った角を▲51 角と打って条件はクリア。▲31 角成を▲31 馬としたのは誤記だと判断して正解にしました。(結果稿を書き終わった後に誤記の連絡もありましたし)

原岡望さん「香落でも成立?」

■左香落ちで下手が取った飛を 11 へ打ち込む手順、△32 飛、▲76 歩、△52 金左、▲33 角不成、△42 飛、▲同角不成、△41 玉、▲11 飛、△44 角、▲21 飛成、△51 金寄、▲31 角成 がありますが手数オーバーの 12 手。香落でも成立します。

RINTARO さん「飛車落ちとは・・・。可能性が広がってしまった。」

■駒落ちの手合だと、例えば飛車落ちだと飛先の歩を突いて行く筋を余詰から外し易くなったり、逆に下手が大駒を捨てる手順が重要になったりする可能性がありそうですね。

山下誠さん「飛車落ちということに拘ると余計なことを考えてしまいます。」

■二枚飛車で追われる余詰みがあるのかと考えたり.... ?

はなさかしろうさん「なぜ駒落ち...と思ったら、最終手 21 でした。」

■はい、今回も 109-4 と同様に盤面反転が目的でした

正解：14名

NAOさん ミニベロさん 諏訪冬葉さん
飯山修さん 小山邦明さん ベベ&ペペさん
ほっとさん 占魚亭さん ジェシーさん 神在

月生さん 原岡望さん RINTARO さん 山下誠さん はなさかしろうさん

135-4 中級 けいたん 作
牛のツノ 11手

「2021年1月1日に対局をしたよ」
「ところでツノ銀雁木戦法は銀を牛のツノに見立てたものだそうだね」
「21銀まで11手で詰みか」
「打った駒を次の手で取られたな」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・11手で詰み
- ・最終手21銀
- ・打った駒を次の手で取られた

出題のことば (担当 Pontamon)

年賀条件はもちろん最終手の「21銀」。ツノ銀雁木との関係は?

作者ヒント

ツノは漢字で書くと角。21年か…。(けいたん)

締め切り前ヒント

21への7手目の角と11手目の銀着手で「ツノ銀」。後手にも21の着手あり。

▲76歩、△42玉、▲33角不成、△32玉、▲22角不成、△33桂、▲21角、△同玉、▲31角成、△12玉、▲21銀 まで11手

(条件)

- ・11手で詰み
- ・最終手21銀 (11手目▲21銀)
- ・打った駒を次の手で取られた (7手目▲21角、8手目△21同玉)

詰上り図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞		丞	馬	銀	皇	一
	龍							王	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

最終手は 21 銀の条件なので、△32 玉に▲22 銀と▲12 龍からの▲21 銀不成の両王手は条件に合いません。最終手の 21 銀は駒打ちになります。銀を打つての詰みとなると、玉の位置は 32 か 12 しかありません。参考 1 図は 32 の玉を詰めた図です。21 銀の支え兼銀尻の 22 地点をカバーするために 12 馬が居ますが、15 手も掛かってしまいました。銀を打てるようにすることと退路封鎖を兼ねた△33 桂と 42 地点を塞ぐ△42 飛、▲21 銀の腹を埋めねための▲31 角などが必要なので手数が掛かってしまいました。

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞		丞	馬	銀	皇	一
					龍	王		馬	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩		三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考 1 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲13 角不成、△32 玉、▲22 角打、△同銀、▲同角不成、△31 角、▲13 角成、△33 桂、▲12 馬、△42 飛、▲21 銀 まで 15 手

参考 1 図の手順では、31 の左銀を取ったので

31 地点を埋めるための△31 角が必要になり、角を取る手と 31 へ打つ手のために 2 手使ってしまった。先手は 71 の右銀を入手することによって 31 の左銀はそのまま良くなります。また、▲13 角成してから▲12 馬と移動するのも効率が悪いので、21 の銀と 22 地点のカバーなら▲11 角成で充分です。これらの反省点を修正したのが参考 2 図になり、11 手目の▲21 銀で詰ますることができました。しかし、棋譜を見ると同が付く手がないので「打った駒を次の手で取れた」の条件をクリアしていませんでした。そもそも先手が駒を打ったのは 71 の銀を取るための▲62 角の手と最終手の▲21 銀の 2 回で、どちらも次の後手の手で取られるわけにはいきません。

参考 2 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	角	丞		丞	爵	銀	馬	一
					龍	王			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 香

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲62 角、△32 玉、▲71 角不成、△42 飛、▲11 角成、△33 桂、▲21 銀 まで 11 手

32 の玉が詰む形では、玉移動は 2 手だけで良いのですが、退路封鎖の協力手があるので 11 手が精一杯のようなのですが、全ての条件（と言っても 2 条件なのですが）をクリア出来る手順が見つかりません。32 までの玉移動で駄目なのに 12 地点まで 4 手掛けての玉移動だと後手の手数は残り 1 手しかありません。実現不可能な気がしますが、32 玉で駄目な 12 玉で詰む形を考えてみるしかありません。

理屈は同じで、▲21 銀を支えることと銀尻の 22 地点をカバーするのですが、玉が 12 に居るのであれば 11 馬では駄目なので、参考 2 図とは

逆位置になる 31 の馬と 21 銀との組み合わせで 12 の玉を詰める形になりそうです。

▲31 角成／▲31 馬で銀を入手して▲21 銀と打てば効率が良いのですが、玉とのすれ違いが必要になります。

角と玉がすれ違わなくて良いように、▲97 角から 31 の銀を取り、後手角はそのまま 22 地点に居座っても詰ますことができます。

▲96 歩、△42 玉、▲97 角、△32 玉、▲53 角不成、△34 歩、▲31 角不成、△33 桂、▲42 角成、△21 玉、▲31 馬、△12 玉、▲21 銀 の手順だと手数オーバーの 13 手ですし、打った駒を次の手で取られることありません。となると、角と玉のすれ違いの手筋の序から入ってみましょう。初手から▲76 歩、△42 玉、▲33 角不成、△32 玉。先手は 31 の銀を取りに行くために 5 手目は▲42 角不成か▲22 角不成。

▲42 角不成だと、△33 桂、▲53 角成、△21 玉、▲31 馬、△12 玉、▲21 銀までの 11 手で詰みですが、またしても「打った駒を次の手で取られた」を実現できません。となると、5 手目は▲22 角不成で次は△33 桂。7 手目に▲31 角成をしてしまうと△21 玉はできないし、▲31 角不成にすると 9 手目に▲42 角成で馬を作ってから 31 へ戻って来ると手数オーバーになってしまいます。7 手目の妙手が「打った駒を次の手で取られた」も実現する▲21 角の打ち捨てです。8 手目からは△21 同玉、▲31 角成、△12 玉、▲21 銀で 11 手詰みとなりました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAO さん「退いた後に打つのは指しづらい。」

■21 への角のただ捨てが手順限定と余詰み排除の妙手。

ミニペロさん「先手の余り手を条件に取り入れて旨くまとめている。渋滞をすり抜けて 21 にたどり着いた玉。シンプルな条件は見事。」

■自駒と先手駒で 2 筋は大渋滞。道を開けても先手にブロックされたので強行突破の△21 同

玉。

諏訪冬葉さん「そうか、34 歩を突かなければ 12 玉まで行けるのか」

■51 から遠い△12 玉は普通は思い浮かび難いです。

飯山修さん「12 玉を詰まそうとすれはすぐこの手順に行き着く。初級でいいと思います。」

■12 玉を詰まそうと考えた時点で 9 割方解図成功！?

小山邦明さん「打った駒を玉で取るという事になかなか気付きませんでした。」

■それが作者の狙いでした。

ほっとさん「玉が 12 まで行くのが読みにくい。」

■遠い地点なので無意識に読みから外してしまうでしょう。

ジェシーさん「このシンプルな条件が素晴らしい。思わず「何としても解きたくなる」作品です。」

■最終手の棋譜が分かっていると実に解けそうな気がしてきます。

原岡望さん「端に追い込む角捨て」

■この▲21 角が見えにくい。

RINTARO さん「2 手目 42 玉を追えば一直線。気持ち良い詰上り。」

■△23 玉経由もありますが、それでは最終手▲21 銀ができません。

山下誠さん「打った駒を取られた場所を想定するのが困難でした。」

■作者の狙い、玉の通り道への角のただ捨て。

はなさかしろうさん「21 銀までは案外詰ましにくかったです。」

■32 玉型を考えてしまいますから。

正解：13名

NAOさん ミニベロさん 諏訪冬葉さん
 飯山修さん 小山邦明さん ベベ&ペペさん
 ほっとさん ジェシーさん 神在月生さん
 原岡望さん RINTAROさん 山下誠さん
 はなさかしろうさん

135-5 中級 NAO 作
 令和3年の決め手 11手

「あけましておめでとう。指し初めの一局はどうだった？」

「11手で詰ませて勝ったよ。成の手、不成の手、同の付く手、玉頭の手は各々1回ずつだった」

「新年早々"1"尽くしとはめでたいね」

「それだけじゃないよ。3連続王手を掛けて2一の手が決め手だった」

「令和3年元旦の指し初めに相応しい一局だね。今年もよろしく」

さて、どんな将棋だったのだろうか。そして令和3年、貴方の勝負手は？

(条件)

- ・11手目に21地点の着手で詰んだ
- ・先手は3連続で王手を掛けた
- ・成の手、不成の手、同の付く手、玉頭の手は各々1回ずつだった

出題のことば (担当 Pontamon)

決め手(最終手?)は21。他に勝敗を分ける決め手があるのか?

作者ヒント

初王手で止めの金を取る(NAO)

締め切り前ヒント

後手玉の右側から連続王手で玉を4筋、3筋へ追い、21の腹金で仕留める。

▲76歩、△34歩、▲22角不成、△同銀、▲72角、△33桂、▲61角成、△42玉、▲43馬、△31玉、▲21金 まで11手

(条件)

・11手目に21地点の着手で詰んだ(11手目▲21金)

・先手は3連続で王手を掛けた(7手目▲61角成、9手目▲43馬、11手目▲21金)

・不成の手、同の付く手、玉頭の手は各々1回ずつだった(3手目▲22角不成、4手目△22同銀、8手目△42玉-9手目▲43馬)

詰上り図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵			馬	王	金	皇	
二		歩						爵		
三	歩	歩	歩	歩	歩	馬	科	歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

1回ずつ指された手が4種類ありますが、普通に考えると、成や不成の手と玉頭の手は攻めている先手側の手でしょう。

同の手が先手なら3手目の同の手は▲44同角しか無いので、おそらく5手目以降でしょう。▲44同角は王手にはならないので、5手目の同の手で駒を入手するか、7手目以降の同の手で初王手になるか、それ以降の合い駒を同の手で取っての王手の手になるはずです。

後手が同の手を指すのなら先手の攻め駒を取られてしまうか捨て駒することになります。先手の駒が取られても良いようにするには先手が2枚以上の駒を取る必要があります。

3連続王手が5手目からだ最終手の11手目の王手と合わせて4連続王手になるので、3連続王手は3手目から7手目の3連続か7手目から11手目の3連続のどちらかになります。連続王手は3回ですが、王手は3回だけとは言われていないので、3手目の王手と7手目から11手目までの3連続王手を合わせて4回の王手とか、3手目からの3連続王手と最終手の王手を

合わせて4回という可能性もあります。

この4回王手の手順で詰ましたのが参考1図の手順です。先手は7手目に▲21角と王手で角を打ち捨てて後手が△同玉、続いて▲31角成での駒成の王手と最終手の▲21銀の駒打ちで詰ました。玉頭の手は後手が△33桂で自玉の頭への桂跳ねで実現していますが、棋譜を見ると不成が2回あったので失敗でした。(手順がスイスイ思い浮かぶと思ったら前問の135-4の作意順でした)

参考1図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	香		香	馬	銀	皇	一
	飛							王	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図：▲76歩、△42玉、▲33角不成、△32玉、▲22角不成、△33桂、▲21角、△同玉、▲31角成、△12玉、▲21銀 まで11手

参考2図は、角での王手を同の手で取らせて、玉頭への駒打ちでの王手、21への駒成での王手の3連続王手で詰めた図です。同の手は後手、不成、成、玉頭の3種の王手を連続で実現しているのが解図完了だと思いきや参考1図と同様に不成の手が2回ありました。3連続王手の条件があるので1回ずつの4種の手のうちの3つは王手の手のはずだと思いついたのが間違いでした。成、不成、玉頭、同の手は通局での条件でした。

参考2図：▲76歩、△34歩、▲22角不成、△33桂、▲12角、△42玉、▲31角不成、△同玉、▲32銀、△22玉、▲21角成 まで11手

参考2図

後手の持駒：角

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	駒	香		香		馬	皇	一
	飛					銀	王		二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	科	歩	歩	三
						歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

参考1図の手順も参考2図の手順も不成が2回になって原因は、後手陣へ角が不成で侵入してからさらに後手陣内で移動する必要があったからです。同の手を後手が指す場合、先手は駒を1枚取られることになるので詰みにするには2枚以上の駒を取る必要があります。(単騎詰み以外)参考2図の手順で▲31角不成の代わりに▲31角成で駒を捨てると最終手の成の手と合わせて成が2回になるので、駒取りのために不成で敵陣に入った駒を成の手で動かすのは効率が悪いようです。となると、3手目に▲22角不成で後手角を入手した後の22の角は動かさずに先手は放置して、取った後手角を使ってもう一枚の攻め駒を入手することになります。5手目に角を打つことになるので7手目の角成で王手しながら駒を取るか、9手目に馬を動かす時に駒を取って、その持ち駒と馬とで詰みに持って行く必要があります。最終手の着手地点は21なので、9手目に駒を取ったのであれば21への駒打ちが王手になる必要があります。7手目に駒を取る場合は駒を打つのは9手目か11手目で、どちらであっても王手での駒打ちになります。9手目に王手での駒打ちをした場合の11手目は21地点への馬移動か9手目に打った駒の移動になります。

初手から、▲76歩、△34歩、▲22角不成となった後、7手目に駒を取れるように5手目の角打ちを何処にできるのかを考えると、駒取りの対象となる駒は金しかありません。銀を取るために42や62地点へ角を打つと5手目に王手になってしまうため条件をクリアできないからで

す。3手目の▲22角不成を△同銀や△同飛で取った場合は31への角打ちで7手目に▲22角成で銀か飛を取ることはできますが、それは王手にはならないので駄目です。7手目から11手目までの3手全ては王手である必要があるからです。

玉頭の着手条件もあるので5手目に▲52角と打った次の手で▲61角成で金を取る手が王手になるには6手目に玉を動かすことはできません。41の金を角成で取るのであれば6手目に△42玉と上がることはできますが、▲41角成の王手での逃げ場は△33玉になり、中段へ玉を逃がしてしまいます。

5手目から▲52角、△何か、▲61角成、△42玉になりますが、ここで9手目に王手になるように▲52金と打ってしまうと11手目に21の着手ができないので9手目は馬を引く▲43馬での王手。42の玉の逃げるための地点を空けるには3手目の▲22角不成を△同銀で取って、31地点を空けておく必要があります。また、9手目が馬での王手であるため、11手目は持ち駒の金を21へ打つ手になりますが、そのためには桂をどかしておく必要があるので6手目の"△何か"は△33桂が確定します。

9手目から▲43馬、△31玉、▲21金で詰みました。

これで安心してはいけません。5手目の▲52角も9手目の▲43馬の手も玉頭の手になっているのでこの手順は正解ではありません。9手目の▲43馬は必須ですので、5手目を▲52角ではなく▲72角とすることで作意順となります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAOさん(作者)「3手目が意外性あるかも。」

■3手目でわざわざ成るのは何の為？4手目の△同銀も意外な手でこの2手でぐっと難易度アップ。

ミニペロさん「これは難問。ヒント待ち。一つ一つの条件はきつくないのに、全部揃えるのは大変。際どい順が満載で、よく推敲されている

と思う。

解いてみれば、無理のない流れるような順で、私が作者でも中級にしたと思うが、何とも不思議な作品。他の人の感想も聞いてみたい。」

■4手目の△同銀で22の馬を取る手が盲点だったという感想が多かった感じです。

諏訪冬葉さん「135-5に135-4と同じ回答を書こうとして不成が1回多いことに気付いた。まさか角を取られるとは思いませんでした。」

■筋違い角を打つための角入手の役目が終わったら取られてもいいのは後になれば分かるけど、指し難い手順です。

飯山修さん「こんな都合のいい手順は作者のヒントを見るまで考えもしなかった。NAOさん甘いヒントありがとうございました。早速詰上り図面DBに追加します」

■詰上り図面DB、いいなあ。どんなものだろう？作りたいと思ってたけど、似た図を検出する方法が未だ見つからず。

小山邦明さん「最終手は王手なので、3連続の先手の王手は、7手目、9手目、11手目となり考えやすかった。」

■担当は「3手目からの3連続王手+最終手」や「3手目王手+7手目からの連続王手」の計4回王手も要チェック。

ほっとさん「4手目取ってしまうのが盲点。これも条件が多くて気を遣う。」

■単に1回ずつなので条件は覚えやすいはず。成・不成・同はよく出てくるけど玉頭の条件が少し珍しかったかも。

ジェシーさん「2二に行った角をすぐ同銀と取るのは、推理将棋では案外盲点かも・・・。」

■皆さんの短評からも分かりましたが確実に盲点だったようです。

原岡望さん「玉頭条件よし」

■▲52角の紛れ筋と思いつき難い▲43馬の二

重の罨。

RINTARO さん「自然な 22 同銀が上手いです。」

■指し将棋なら▲22 角成に△同銀は自然ですが、推理将棋では同で取るのが不自然。

山下誠さん「玉頭の手が 4 三馬と気づくまでが一苦勞でした。」

■玉頭の手で思い浮かぶ▲52 角は失敗します。31 空いているのが実現できた▲43 馬でした。

はなさかしろうさん「なるほど。61 の金を取りに行くんですね。」

■過去問の経験からだ▲52 角から取りに行ってしまうそうなので要注意。41 の金を取る手順が多いと思いますが。

正解：11 名

NAO さん ミニベロさん 諏訪冬葉さん 飯山修さん 小山邦明さん ほっとさん ジェシーさん 原岡望さん RINTARO さん 山下誠さん はなさかしろうさん

135-6 中級 NAO 作
初成りの初王手 11 手

「あけましておめでとう」

「おめでとう。指し初めの将棋、途中まで観戦させてもらったよ。

後手は玉を 2 回、1 手おきに動かしていたね。その後どうなった？」

「11 手目に 21 地点への初成り、初王手で詰ませて勝ったよ。

3 筋に指した大駒の手に対し大駒の手で応じたのが勝負の分かれ目だった」

「新年早々から絶好調だね。今年もよろしく」

さて、指し初めの一局はどんな将棋だったのだろうか。

(条件)

- ・ 11 手目 21 地点への着手が初成りの初王手で詰んだ
- ・ 後手は玉を 2 回、1 手おきに動かした
- ・ 3 筋に指した大駒の手に対し大駒の手で応じた

た

出題のことば (担当 Pontamon)

11 手詰の 3 作品とも最終手は 21。本作は 21 での初成初王手です。

作者ヒント

玉移動は 4 手目 42 玉と 8 手目 33 玉の 2 回です。(NAO)

締め切り前ヒント

空き王手で 33 の玉を 21 の手で詰める。21 の手は不成ができない強制成の駒。

▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲11 角不成、△32 銀、▲22 香、△33 玉、▲35 角、△42 飛、▲21 香成 まで 11 手

(条件)

- ・ 11 手目 21 地点への着手が初成りの初王手で詰んだ (11 手目▲21 香成)
- ・ 後手は玉を 2 回、1 手おきに動かした (4 手目△42 玉、8 手目△33 玉)
- ・ 3 筋に指した大駒の手に対し大駒の手で応じた (9 手目▲35 角、10 手目△42 飛)

詰上り図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	鶴	雫		雫		杏	角	一
					雫	鶴			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	王	歩	歩	三
						歩			四
						角			五
			歩						六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 桂

最終手が 21 で、玉の手は 1 手おきの 2 回なのでおそらく 3 筋で玉が詰まされるはず。2 手目に△34 歩を指さない場合は 3 手目の有力候補の▲33 角不成が王手にならないようにするので 2 手目は△42 金か△42 銀。△42 飛だと、4 手目に 41 の金を動かしてから 6 手目の△41 玉になるはず。となると 1 手おいて、後手の最終手となる 10 手目に 3 筋への玉移動になる。

この方針で指し進めてみたのが参考 1 図です。どうか 11 手目を 21 で駒成での初王手をしてみましたが、21 の馬を支えるために 7 手目は▲11 角成をしているので、最終手は初駒成ではありませんでした。それより、41 地点が空いているので詰んでません。2 手目が△42 金だとしても、結局 42 地点の駒が残って、41 地点は空いたままになるので結果は同じになります。

参考 1 図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	爵			爵	馬	馬	
二					飛	王				
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四										
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 香歩

参考 1 図：▲76 歩、△42 飛、▲33 角不成、△52 金左、▲22 角不成、△41 玉、▲11 角成、△33 桂、▲12 角、△32 玉、▲21 角成 まで 11 手

2 手目に△34 歩を指すと、3 手目は▲22 角不成で角入手が参考 1 図より 1 手早くなります。その場合は最終手の 21 角成の馬を支える駒として 11 の香を入手して▲22 香と打つことが可能なので 11 への角着手は不成で済ませることができます。この手順で 11 手で詰めたのが参考 2 図です。最終手の▲21 角成は初の駒成で初王手になっています。また参考 1 図では実現しなかった、先手の大駒の手に後手が大駒で応じる△42 飛も実現できましたが、先手の大駒着手は 1 筋なので「3 筋に指した大駒の手」にはなっていないので失敗でした。

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲11 角不成、△33 桂、▲22 香、△32 玉、▲12 角、△42 飛、▲21 角成 まで 11 手

参考 2 図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	爵		爵	爵	馬	角	
二						王	香			
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 なし

参考 2 図を見ていると、11 の角に 22 の香の配置に目が留まるかもしれません。つまり、最終手が▲21 香成で空き王手になるように玉は 32 ではなく 33 に居る場面が頭の中に浮かんできます。▲12 角からの▲21 角成ではなく最終手が▲21 香成なら、▲12 角と打つ 1 手が余ってきます。

玉が 33 なら、玉が移動できる地点としては 24 と 44 の中段への進出と、▲21 香成では利きがない 32 地点の 3 箇所になりそうです。

初手から進めてみると、▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲11 角不成、△何か、▲22 香、△33 玉。続く 9 手目からは先手の 3 筋の大駒着手に 10 手目の後手の大駒着手のあとに最終手▲21 香成ですので、9 手目は▲35 角と打って、24 と 44 の玉脱出経路の両方を防ぎます。10 手目の後手の大駒着手は△42 飛です。もし 10 手目に△32 飛で 32 地点を埋める手だと、空き王手の時に△22 飛で合いが可能になるからです。31 の銀が居るままだと同じく△22 銀での合いができるので、不明だった 6 手目の「何か」は△32 銀になります。これで玉の退路の 32 を埋めつつ、△22 銀の合いができませんので、空き王手での詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

NAOさん(作者)「開き王手狙い。年賀でなければ 4 筋の大駒着手としたいところ。」

■少なくとも「21の小駒着手があった」の条件は必要ようです。

ミニペロさん「後手は玉を2回、1手おきに動かした」計3回ともとれるが、これでいいのかな。

4筋に利きが重複するので、「大駒の手に、同じ筋に大駒で応じた」としたいが、この辺は作者の好みか。」

■「後手は1手おきに玉を2回動かした」なら、玉移動があった後のことかもしれないので玉移動3回の可能性がありそうですが、問題文は読点で区切られているので多分大丈夫なのでしょう。(実は担当も2, 6, 10手目の3回玉移動の順を検討しました)

同じ筋に大駒の条件だと、▲35角ではなく▲46角に△42飛の形ですね。

諏訪冬葉さん「中間ヒントのおかげであき王手しかないと感じました。」

■33の玉ですからね。大甘の作者ヒントでした。

飯山修さん「これも作者のヒントがなければ到底到達出来ない手順。1月22日迄待ってて良かった」

■「玉移動は4筋への4手目と3筋への8手目の2手のみ」くらいでも良かったかな？

小山邦明さん「最終手しか成りがないので、11に角、玉は33で24への脱出ができないようにと考えました。」

■成が最終手の21と聞くと、飛先の歩を突いて行って21歩成までで31の後手玉を詰ます手順が思い浮かびますが、それでは大駒着手ができません。成が最終手という情報から空き王手を発想できるところが凄い。

ほっとさん「22香～21香成が見えにくい。」

■空き王手を読まない限り思い付かない香入手と▲22香の手。

ジェシーさん「つい、玉を3-1に持ってきたくなりますよね～。」

■駒成が21への最終手だけとなると、思い浮かんだ詰み形から抜け出せなくなります。

RINTAROさん「なるほど、空き王手もあるのか。」

■下からの空き王手は少ないように思います。

山下誠さん「飛角の組み合わせばかりを考えて手間取りました。」

■攻めの主流は何と言っても大駒なので、飛角の組み合わせを検討することは仕方ありません。

はなさかしろうさん「初成の初王手、新春らしくフレッシュでした。」

■実はこちらの作品が無理を言って作っていた2作目。最新作という意味でもフレッシュでした。

正解：12名

NAOさん ミニペロさん 諏訪冬葉さん
飯山修さん 小山邦明さん ほっとさん ジェシーさん 神在月生さん 原岡望さん

RINTAROさん 山下誠さん はなさかしろうさん

135-7 上級 ミニペロ 作
令和三年 年賀詰 13手

「はい、13手目の初王手で詰み。僕は偶数筋には着手しないで勝ったよ」

「駒を取ってすぐに駒を取ったその筋に打つ手が3回あったね」

「金の手は4手目だけか。変な将棋だったね、成る手もなかったし。」

「ところで、令和三年の年賀状は書いた？」

「書いたよ。今年は丑年だから、レバーとかミノとか、牛の部位のイラストにしたよ」

「……………」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

・13手目の初王手で詰み

- ・先手は、偶数筋には着手しなかった
- ・駒を取ってすぐに駒を取ったその筋に打つ手が3回あった
- ・金の手は4手目だけ
- ・成る手なし

出題のこぼ (担当 Pontamon)

年賀条件らしいのは年賀状の牛の部位のイラストという会話？

作者ヒント

17-3を見てね！ (ミニベロ)

締め切り前ヒント

国会の牛歩は遅いが、歩みは速く老婆は追いつけない。肉の部位はミスジ。

余詰修正

会話と条件の「打つ手が3回」の前に「駒を取ったその筋に」を追加

余詰修正2

会話:「変な将棋だったね」の後に「、成る手もなかったし」を追加

条件: ・成る手なし を追加

▲36 歩、△42 玉、▲35 歩、△51 金右、▲34 歩、△52 飛、▲33 歩不成、△同桂、▲34 歩、△32 歩、▲33 歩不成、△同角、▲34 桂 まで13手

(条件)

- ・13手目の初王手で詰み (13手目▲34桂)
- ・先手は、偶数筋には着手しなかった (初手▲36歩、3手目▲35歩、5手目▲34歩、7手目▲33歩不成、9手目▲34歩、11手目▲33歩不成、13手目▲34桂)
- ・駒を取ってすぐに打つ手が3回あった (7手目▲33歩不成-9手目▲34歩、8手目△33同桂-10手目△32歩、11手目▲33歩不成-13手目▲34桂)
- ・金の手は4手目だけ (4手目△51金右)

詰上り図

後手の持駒: 歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵		香	香	爵		皇	一
				王	王	歩			二
歩	歩	歩	歩	歩	歩	皇	歩	歩	三
						桂			四
									五
									六
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	七
	角						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

先手の着手が奇数筋だけとなるとどんな詰み形が思い浮かびますか？派手なものには▲58飛と▲55角から▲33角不成の両王手がありますが、第一回で出題された同じ作者の1-3「とどめは香」9手の詰み形も有力です。手数が増えているので▲22角不成で偶数筋の着手をしないで済むように、▲33角不成で後手の角を取れるように後手の協力も期待でき、取った角は▲51角と打ち、▲11角不成で取った香で仕留める筋書きです。

参考1図の手順だと、41地点が空いているので詰みではありません。しかし、4手目に金の着手をしないとイケませんし、金の手は1手だけなので△41金と戻ることもできません。2手目△42飛は3手目の▲33角不成の王手を避けるためだけではなく、金移動で空いた41を△41飛で埋める予定でしたが、その手を入れると手数オーバーになります。

参考1図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	爵	角		爵	科	角	
二					王	遊	遊			
三	歩	歩	歩	歩		歩		歩	歩	
四					香					
五					歩					
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

参考1図：▲76歩、△42飛、▲33角不成、△32金、▲77角不成、△55角、▲同角、△52玉、▲51角、△54歩、▲11角不成、△55歩、▲54香まで13手

※余詰修正により、駒を取った筋と同じ筋へ打たないといけないので、11で取った香を5筋に打つことはできなくなっています。

余詰検証や解図の際には必ず検討されていると思われる形として、1間龍（飛）の形があります。居玉に対しては▲31飛や▲71飛が最終手になる形です。本問では成る手ができないので、▲31/71龍や▲31/71飛成はできないので玉の媚びんは別の方法で抑える必要があります。具体的には▲54桂や▲53角などがあるでしょう。

先手は奇数筋にしか着手でなくて駒成もできないので、△32飛を▲33角成かの▲32馬で取ることはできません。53地点で飛を取るには4手目金の条件があるのでうまくいきません。参考2図は、玉の媚びんを▲53角で抑え、▲71飛で詰ませた図になります。しかし、▲53角不成で取った歩を打つ手はありませんし、▲71同角不成で取った飛を次の手で打ってもいけないので失敗です。

参考2図：▲96歩、△72飛、▲97角、△52金右、▲53角不成、△82銀、▲35角不成、△71飛、▲同角不成、△84歩、▲53角不成、△83銀、▲71飛まで13手

参考2図

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	飛		王	遊	爵	科	皇	
二					遊			皇		
三	歩	爵	歩	歩	角	歩	歩	歩	歩	
四		歩								
五										
六	歩									
七		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 歩

参考2図で53の歩を取らないで済むように、▲76歩、△72飛、▲55角、△52金右、▲16歩、△74歩、▲15歩、△73飛、▲同角不成、△62銀、▲72飛、△42銀、▲71飛不成の手順で詰みますが、取った駒を次に打つ手が1回しかありません。

▲71飛での詰みは無いと思っていましたが、「成る手なし」の条件追加をする前の条件で、飯山さんから指摘があった手順を取り入れた順が下記の▲71飛で詰みになる手順でした。粗検、申し訳ありません。

▲96歩、△54歩、▲97角、△52金右、▲53角成、△42銀、▲71馬、△74歩、▲72銀、△同飛、▲同馬、△73銀、▲71飛まで13手

なお、最初の条件でNAOさんか指摘があった下記の余詰手順では、取った駒を取った筋とは別の筋へ打つ手順でした。

▲96歩、△54歩、▲97角、△32金、▲31角成、△52玉、▲72銀、△34歩、▲76歩、△99角不成、▲71銀不成、△51香、▲53銀まで13手

また、修正1後の成る手が許されている条件での余詰手順もいただいています。

▲36歩、△52玉、▲35歩、△51金右、▲34歩、△62銀、▲33歩不成、△同角、▲34歩、△38歩、▲33歩成、△44歩、▲34角まで13手

13 手もあるといろんな手段が可能になるようです。粗検、大変申し訳ありませんでした。

さて、作意順ですが、奇数筋だけと言われると2つの筋を行き来して駒を入手して次の手で打つような流れを想像しそうです。しかし、そのような手が3回あるとのことですので、攻める先手の7手のだけでは無理なのが分かります。初手▲76歩なら、残りの6手は、駒を取って次に打つという手を3回繰り返すこととなりますが、3手目に取れるのは33の歩だけなので5手目に歩を打てる筋がないからです。となると、後手も先手の駒を取っ次の手で打つ必要があります。後手陣近くで先手の駒を取るのであれば、先手が着手している奇数筋の駒を取ることになります。最初に先手の駒を取られてしまっただけでは攻めの継続が難しくなるので、後手が先手の駒を取るタイミングは、先手が後手の駒を取る手を指したその駒を同で取るか、先手が取った駒を打った時に同で取るかになるでしょう。また、余詰修正によって、取った駒はその筋へ次の手で打たなければいけないので、同じ筋の着手が増えることとなります。3回目の駒を取って打つのは先手でしょうし、それまで手が進んでいる筋は2回の駒取りがあった筋なので、結局、先手の着手はひとつの筋である可能性が高いはずですよ。

では、その筋は何処でしょう？取って取られてを繰り返すには、先後の駒が多数利いて地点を探してみるのが良さそうです。13地点は、後手の香、桂、角が利いているし、先手が1筋の歩を伸ばしていけば、先手の香も利くし、▲18飛の1手を入れれば飛も利いてきます。しかし、1筋は玉から遠いので手数が足りなさそうです。9筋も同様に遠いので外します。5筋の2段目なら左右の金が利いていますが、初王手での詰みの条件をクリアするのが難しそうです。残る奇数筋の3筋と7筋を比較すると3段目への利きが角の分だけ多い3筋の可能性が高いでしょう。

初手から、▲76歩、△42金、▲33角不成で歩を取っても5手目に歩を打つことができないので、角の出番があるとしてもそれは後半になるでしょう。とすると、初手は▲36歩しかありません。先手は3筋の歩を突き進めるしかないので、▲33歩不成で歩を取れるのが7手で、9

手目には取った歩を打たなければいけないので、後手は8手目に33の先手の歩を△33同○の手で取る必要があります。これで先手は9手目に▲34歩と打って、11手目には後手が8手目に指した33の駒を取ることができそうですが、残りの手は最終手で11手目に取った駒を打って詰める必要があります。後手は8手目に33で取った歩を10手目に3筋へ打つこととなります。7手目以降を整理してみると、7手目から▲33歩不成、△同○、▲34歩、△3○歩、▲33歩不成で8手目着手の駒を取って、10手目の△何かの次に9手目に取った駒を3筋へ打って詰める。9手目に▲33歩不成で駒を取った歩がそのまま33に居る場合はそれを支えにして駒を打てるのは32地点になります。最終手を支えている33の歩を32へ打った駒で支える必要もあるのでその駒種は金になるはずですよ。ところが金の着手は4手目の1回だけなので、33の歩と協力して2枚の駒での詰みではないこととなります。となると、11手目に打つ駒ひとつだけで詰める単騎詰みになります。11手目に3筋へ打つ駒が取られないためには、9手目に取る駒は桂で10手目は△33同角であれば頭の丸い角頭の34地点への桂打ちで詰む形を作れます。7手目からの手順を再確認すると、▲33歩不成、△同桂、▲34歩、△32歩、▲33歩不成、△同角、▲34桂になります。

先手が7手目まで歩を進めているうちに後手は△42玉へ玉移動したり、退路になる51や52地点を埋める手が必要になります。初手から、▲36歩、△42玉、▲35歩、△51金右、▲34歩、△52飛の6手になり、7手目以降の手順で桂単騎の詰みになります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

ミニベロさん(作者)「正月用に条件をいじったのが間違い。新年早々申し訳ありませんでした。第17回は、私がタラパパさんの代打ちを務めた回ですが、はなさかしろうさんが解答デビューした回でもありましたね。

令和三年・先手3筋のみ、歩の前進・牛歩ということで、一応年賀でよろしく。」

NAOさん「先手が描いたのは3筋(ミスジ)。美味しい牛をごちそうさま。」

■ミスジは肩甲骨辺りの肉で、1頭から数百グラムしか取れない希少部位らしいですね。(3kgとの情報もあり)

諏訪冬葉さん「中間ヒントで桂吊るしは見えましたが歩の打ち直しに気づくまで時間がかかりました。」

■成る手なしなので後手の歩を取った自分の歩が盤上にあるので次の手で歩は打てないと思いつくと後手の△33 同桂が見える前に▲33 歩不成は駄目だと判断してしまいがち。

飯山修さん(双方解)「作者のヒントで吊し桂は判ったが角で入ると王手になってしまいお手上げでした。歩なら確かに王手がかからない。歩の行進で間に合う為の 13 手は長すぎて余詰潰しが難しいですね」

■余詰手順の御指摘、ありがとうございました。

小山邦明さん(余詰解)「修正前の条件で考えていたので、最終手は 31 飛打で合駒無しを収束形として考えました。」

■▲53 角成で取った歩を次の手で打っていないですが、「取った駒は"必ず"次の手で打った」という条件ではないので解答いただいた手順(取った銀をすぐ打つのが2回と取った飛をすぐ打つのが1回の計3回)も正解になります。▲96 歩、△32 飛、▲97 角、△52 金左、▲53 角成、△62 銀、▲31 馬、△34 歩、▲33 銀、△同角、▲32 馬、△35 銀、▲31 飛 まで 13 手

ほっとさん「先手はまさかの3筋のみ。」

■奇数筋のみと言われると、最終的には2つの奇数筋の駒での協力を想定してしまいます。

ジェシーさん「17-3を見なければ、絶対に解けない問題でした。」

■作者ヒントが甘過ぎましたか。

原岡望さん「素っ気なく見え、実は親切なヒント」

■作者ヒントで詰み形がほぼ見えてました。

RINTAROさん「17-3と牛歩戦術を参考に解けました。」

■ヒントが解図の参考になったようですね。

山下誠さん「なるほど3筋で牛歩戦術でしたか。まじめにヒントを読むべきでした。」

■考えなくてもわかるようにミスジ(3筋)の方が良かったですね。

はなさかしろうさん「ぴったりで楽しい手順でした。」

■解図を楽しんでいただけたようで幸いです。

正解：11名

NAOさん ミニベロさん 諏訪冬葉さん
飯山修さん 小山邦明さん ほっとさん ジェシーさん 原岡望さん RINTAROさん 山下誠さん はなさかしろうさん

135-8 上級 Pontamon 作
丑年の初詣は善光寺 21手

「あけましておめでとう。お邪魔します」
「今年もよろしく。では、指し初めと行くか」
「(パチ)今年は2021年か、コロナ禍はどうなるのかな。コロナは王冠が語源だってね」
「(パチ)東京五輪を開催できるのかな。トップ選手のぶつかり合いを観たいなあ」
「(パチ)今日は善光寺さんへ初詣した帰りなんだ」

「(パチ)丑年の初詣は善光寺か。「牛に引かれて善光寺参り」の由来はなんだっけ？」

「おっと、駒成は無かったのにこの21手目で詰みだね」

「21と11への玉の手は2021年1月1日らしい手だったね」

「後手のある駒の頭へ先手の盤上のある駒を連続で5回ぶつけた手も今年らしい」

「そうだね、何度も頭をぶつけるのは牛の角突きみたいだったね」

「頭と言えば、玉頭の歩を突く手があったね」
「玉から角が伸びたみたい。奥さんが角を生やす前に帰った方がいいよ」

さて、どんな手順だったのでしょうか。

(条件)

- ・駒成なく 21 手で詰み
- ・21 と 11 への玉着手があった
- ・後手のある駒の頭への先手の盤上のある駒の着手が連続で 5 回
- ・玉頭の歩を突いた

出題のこぼ (担当 Pontamon)

対局中の世間話。過去問では会話にヒントが隠されている事も。

作者ヒント

不成も無いから中段玉? (Pontamon)

締め切り前ヒント

後手陣で先手の駒が動くが、成や不成が付かない駒。32 への駒打ちで詰み。

余詰修正

会話と条件

「5 回」⇒「連続で 5 回」

余詰修正 2

会話と条件

「先手のある駒」⇒「先手の盤上のある駒」

▲68 玉、△34 歩、▲66 歩、△同角、▲67 玉、△55 角、▲56 玉、△44 角、▲45 玉、△33 角、▲34 玉、△22 角、▲23 玉、△42 銀、▲22 玉、△52 金左、▲11 玉、△41 玉、▲21 玉、△51 金寄、▲32 角 まで 21 手

(条件)

- ・駒成なく 21 手で詰み (21 手目▲32 角)
- ・21 と 11 への玉着手があった (17 手目▲11 玉、19 手目▲21 玉)
- ・後手のある駒の頭への先手の盤上のある駒の着手が連続で 5 回
(4 手目△66 同角－5 手目▲67 玉、6 手目△55 角－7 手目▲56 玉、8 手目△44 角－9 手目▲45 玉、10 手目△33 角－11 手目▲34 玉、12 手目△22 角－13 手目▲23 玉)
- ・玉頭の歩を突いた (初手▲68 玉、3 手目▲66 歩)

詰上り図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵		季	王		玉		
二		遊			季	爵	角			
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	
四										
五										
六										
七	歩	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	
八		角						飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 桂香歩2

11 玉と 21 玉の着手があったという条件なので初期配置で 51 の後手玉を 11 まで移動してみますが、その際、後手玉の駒頭へ先手の 1 つのある駒を 5 回ぶつけることができそうです。ぶつけることができる駒種は、王手だったとしても後手玉がかわすことができる駒種でなければいけないので、飛、角、銀の 3 種しか無さそうです。

飛を後手玉の頭へ当てると、後手玉は 1 段目を 1 筋側へ移動していき、先手飛は隣の筋の 2 段目へ移動します。これを 1 筋まで繰り返せば駒をぶつける手を 5 回達成できます。

先手の駒が銀や角の場合は、後手玉は斜め移動してぶつけられた駒の脇腹へ移動します。

先手のどの駒種をぶつけるにしても、後手玉が移動する経路に後手の自駒があってはけません。

参考 1 図は、先手が後手の飛を取って、横這いする 1 段目の玉を▲52 飛から▲12 飛不成まで 5 回連続で追ったものです。▲12 飛不成まで行って駒を頭に 5 回ぶつけることができた次の手は△21 玉と戻ったところを▲22 金の頭金で詰める手順なのですが、手数オーバーの 23 手になってしまいました。

参考 1 図：▲76 歩、△42 飛、▲33 角不成、△52 玉、▲42 角不成、△54 歩、▲31 角不成、△51 玉、▲22 角不成、△42 金、▲11 角不成、△33 桂、▲52 飛、△41 玉、▲42 飛不成、△31 玉、▲32 飛不成、△21 玉、▲22 飛不成、△11

玉、▲12 飛不成、△21 玉、▲22 金 まで 23 手

参考 1 図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	將	香				王		
二								金	飛	
三	歩	歩	歩	歩		歩	科	歩	歩	
四				歩						
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 角銀香歩

そこで、銀を後手玉の頭へぶつける手順を検討してみたのが参考 2 図です。玉は 52、41、32、21、12 の順で移動できるように経路を準備しておきます。玉頭の歩を突く手の条件があるので、△52 玉の後の△54 歩がピッタリで、銀を玉の頭へぶつける最初の▲53 銀を打つことができ、△12 玉、▲13 銀不成の後は△11 玉を指して 11 玉と 21 玉の手の条件をクリアし、21 手目の▲22 金までの手順が参考 2 図となっています。後手の飛の横利きが残っているために 21 手目の▲22 金では詰んでいません。

玉の頭へぶつけるのが銀ではなく▲53 角から開始しても同様に 21 手目の▲22 金では飛の横利きがあって詰みにはなりません。

参考 2 図：▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△52 玉、▲31 角不成、△54 歩、▲22 角不成、△33 桂、▲11 角不成、△42 金、▲53 銀、△41 玉、▲42 銀不成、△32 玉、▲33 銀不成、△21 玉、▲22 銀不成、△12 玉、▲13 銀不成、△11 玉、▲22 金 まで 21 手

参考 2 図

後手の持駒：角

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	將	香					王	
二		歩						金		
三	歩	歩	歩	歩		歩		歩	銀	
四					歩		歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	

持駒 角桂香歩

玉の移動に乗じて後手駒の頭へ先手駒をぶつける手順を検討しましたが、玉移動と 5 回のぶつけは別なのでしょうか？

▲76 歩、△34 歩、▲22 角不成、△42 玉、▲11 角不成、△33 桂、▲72 角、△62 銀、▲63 角不成、△51 銀、▲52 角不成、△62 銀、▲63 角不成、△51 銀、▲52 角不成、△32 玉、▲41 角不成、△21 玉、▲32 角不成、△11 玉、▲21 金 までの 21 手だと△12 玉の逃げ場が残っていて失敗です。

あとは何処が間違っているのでしょうか？

条件を見直してみると「21 と 11 への玉着手があった」となっているだけで、後手玉だとは言っていませんでした。解図の際、都合が良さそうだから後手玉が 21 や 11 へ行くのだと勝手に思い込んでいました。

まさかとは思うものの、過去の年賀作品では先手玉が後手陣へ行く作品がいくつかあったので、21 と 11 の玉着手が先手玉の場合を考える必要があります。9 段目の玉が 1 段目へ行くのには最低 8 手必要で、11 と 21 の玉着手も考慮すると先手玉の着手回数は最低でも 9 手。先手着手が全部で 11 手のうちの 9 手を玉移動で費やすと、残りの先手着手は 2 手になり、最終手は玉で王手するわけにはいかないので玉移動中に入手した駒を打つ手になることが予想されます。

先手玉はどこから後手陣へ入玉できるのでしょうか？後手の歩頭の 4 段目へ玉が出る訳にはい

かないので、どこからの後手の歩を突いてもらい、その歩を斜めから取って4段目へ行き、次の手では両隣りの筋のどちらかの3段目の歩を取って入玉することができそうです。

次に2段目への玉移動ですが1段目の後手駒の他に飛の横利きもあるのでちょっと難しそうです。11や21へ行く必要があるので、後手の△12香と飛の横利きを止める手の協力があれば▲12玉から▲11玉や▲21玉という経路がありそうです。その他には△42銀で飛の横利きを止めてくれれば▲22玉から▲11玉や▲21玉を指せそうです。こちらだと後手の協力手は1手だけで済みそうです。もちろん▲22玉とするには後手角の利きが無い状態か22に後手角が居る必要があります。

話は戻って、先手に残されている手はあと1手です。まだクリアできる見込みが立っていない条件は「玉頭の歩を突いた」と「後手のある駒の頭へ先手のある駒を5回ぶつけた」の条件です。先手の駒を5回ぶつけることができる駒は後手陣へ向けて移動する玉しかありませんし、頭へ玉をぶつけることが可能な後手の駒は角しかありません。となると先手の残り1手は玉頭の歩を突く手に違いありません。(後手が後手玉の玉頭の歩を突く可能性もありますが)

後手の角の頭へ先手玉をぶつけ、角は一マス斜め後ろへ引き、玉は角頭へぶつけ直すことを繰り返すこととなります。玉の移動中に後手が突いた△34歩を取る必要があるので、最初に角頭へ玉をぶつける地点は67。そのためには後手角は66へ来ている必要があります、▲67玉を可能にするには▲66歩が指されている必要があります。▲66歩を突くのは手順前後がありそうですが、ここで効いて来るのが「玉頭の歩を突いた」という条件。

これらをまとめると初手から、▲68玉、△34歩、▲66歩、△同角、▲67玉と角頭へ玉をぶつけるのが最初なので5回目は、△22角、▲23玉になります。続く14手目は△42銀で22の角への利きを外し15手目は▲22玉。この後、先手は▲21玉と▲11玉の2手と最終手の駒打ちで詰ます必要がありますが、持ち駒にあるのは角と歩で今後入手可能なのが香と桂。42に後手の銀が居るので、とどめは銀腹の32への角打ちになりそうです。その32の角を支えるため

には17手目は▲11玉で19手目が▲21玉の順になります。▲32角で詰むためには後手玉は41に居る必要があるので、16手目からは△52金左、▲11玉、△41玉、▲21玉として、20手目は玉の退路を塞ぐ△51金寄に▲32角で詰みになります。

余詰手順について

最初の余詰修正の「連続で5回」ですが、「21と11」の着手駒が「玉」であることを明かし、「駒成なし」も条件に追加したことで「連続5回」としなくても「5回」だけで限定されると思ったのですが甘かったです。5手目に玉頭へ角を打つ手で開始されて、頭をぶつける手が5回連続ではない余詰手順数種がNAOさんから指摘されました。

例：▲76歩、△34歩、▲22角不成、△32飛、▲52角、△42玉、▲43角不成、△12香、▲31角不成、△同玉、▲32角不成、△22玉、▲92飛、△24歩、▲23角不成、△11玉、▲12角不成、△31金、▲21角不成、△同玉、▲12銀まで21手

最初の余詰修正後にNAOさんから指摘があった余詰手順は下記のような手順になります。

▲76歩、△52玉、▲33角不成、△54歩、▲22角不成、△33桂、▲11角不成、△42金、▲53角、△41玉、▲42角不成、△32玉、▲33角左不成、△21玉、▲22角上不成、△12玉、▲13角不成、△32銀、▲14桂、△11玉、▲22金まで21手

余詰修正2は「盤上の駒」に限定したものです。これによって、修正1の余詰指摘手順にある▲52角と打つ手から始まる手順は除外されるので、最初の余詰修正の「連続で」の追加は不要かもしれませんが、修正2を公示するまでに他の手順を検討する時間が無かったので修正1はそのままにしました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon 『牛に引かれて善光寺参り』の由来の『軒下の布を角に引っ掛けて行った牛を追い

かけ、追いつきそうになっては離されるを繰り返しているうちに善光寺へ着いてしまった』を序にする構想から作図したところ、運よく 21 と 11 の着手も絡めて 21 手になりました。ただ、その後の余詰消しに四苦八苦。緩めた条件で出題した結果、余詰み作となってしまいました。申し訳ありません」

NAOさん(双方解)「作者ヒントの"不成なし"で謎が氷解。ツノに玉をぶつけるとはビックリ。不成を含む筋を相当追いかけてました。取った駒(飛、角、銀)で追い回す筋もどれも際どいが1手だけ足らず。」

■5回連続の初回が駒打ちだと余詰む順があるのは気付いてましたが他の条件によって排除されていると思っていたので、余詰再修正が必要になってしまいました。余詰指摘ありがとうございます。

ミニペロさん「先手玉だと気が付くかどうかは分かれ目。問題文は21・11とあるが、11の香から先に取るのがミソ。」

■21、11の順は会話の流れ。ミスディレクションを誘う気は毛頭ないけど、異論が出るかな？

飯山修さん「後手陣というのが3段目以内と思いつきあきらめていた手順だけどそうでないと判ればあっさり解決」

■後手陣は3段目以内のことになりますが、「後手陣」が出て来た締め切り前ヒントを「先手着手は全て後手陣内」だと勘違いされたのですかね？

小山邦明さん「修正前の条件で考えていたので、飛の横利きを遮断するため、途中で玉頭の駒をスイッチさせる事で詰ます事を考えました。」

■玉頭の駒を別の駒にスイッチすると「先手の"ある駒"」が"別の駒"に代わることになるので条件を満たしていませんでした。▲53銀から▲42銀の代わりに持ち駒の角を▲53角と打つたかの▲42角不成の後▲33角右不成、▲22角不成、▲13角不成としても駒種は角ですが途中で別の角に代わるので、この手順も修正前の条件を満たしていません。

ほっとさん「11や21の玉着手が先手玉だったとは。」

■「玉着手」はミスディレクションを狙った条件でした。

ジェシーさん「時間切れです。ぶつける駒とは、3二玉に対し3三角不成～2二角不成の往復という迷路にはまってしまいました。」

■2地点間の往復や3地点の往復などいろいろありそうです。「牛に引かれて…」の由来を調べると閃き易かったと思うのですが、短評からは推し量れませんでした。

原岡望さん「玉で攻めるとは意外」

■先手の金を後手角へぶつけて行くと、最終手の32角を支えることができません。と言っても出題時の条件では11と21の着手は玉と明かしている(作図時は単に「21と11の着手があった」)ので、21と11の玉が先手玉だと気が付くかが解図の岐路になります。

RINTAROさん「余詰手順しか分かりません。ヒントを見て、ますます分からなくなりました。『成や不成が付かない駒』って『金』ですよ。そもそも作者ヒントによると『不成も無い』ということですから、角を使うのはあり得ないということですね。全く分かりません。降参です。」

■解答いただいた▲52飛から▲12飛不成までの横這いで玉を追う手順では、51玉の状態での54歩としているので「玉頭の歩を突いた」の条件をクリアできていませんでした。

「後手陣で動いても成や不成が付かない先手の駒は2種あります。」という直前ヒントも用意していたので、こちらだったら玉に気付いたことでしょう。最終、32への駒打ちを追加したので2種は削ってしまいました。

山下誠さん「1一玉と2一玉が先手の玉と気づくまでが長い道のりでした。」

■そばにいる後手玉のはずという先入観ですね。先手玉が後手陣まで入り込む過去作としては98-4、118-4がありました。

はなさかしろうさん「素晴らしい手順でした。」

会話を振り返ると、いろいろ仄めかされていたわけですが。
今回は半分以上の問題で完全にヒントを頼りにしましたが、最後にこの問題を解けて良かったです。」

■会話での仄めかしや 134-2 の解説で「駒成なし」は「不成があった」ことにはならない、と伏線を張りましたが効かなかったようです。「成る手も不成の手も無し」の条件だったら「21 と 11 の玉着手」が先手玉だと気付く方が多かったことでしょう。

正解：8名

NAOさん ミニペロさん 飯山修さん 小山邦明さん ほっとさん 原岡望さん 山下誠さん はなさかしろうさん

総評

NAOさん「"21"と"3"に関連した年賀詰特集を楽しみました。

詰まされる玉位置が8問とも異なっているのが素晴らしい。なぜか 21 玉での詰みはなかったが、最後に先手の 21 玉型が出てきて納得。」

■「成駒の着手なく 11 手目の 11 香成で詰めた／玉を3回連続で動かした」とか「21 玉を 11 手目の 32 金で詰めた」がありそう。

ミニペロさん「ご迷惑おかけしました。今年一年、多難な年になりそう。」

■こっちこそ、粗検申し訳ありませんでした。

諏訪冬葉さん「135-8 は考え中ですが、今年も全問正解の目標が 1 月で潰えそうな気がします。」

■結局、再解答は無かったようです。残り全問正解を目指しましょう。

小山邦明さん「上級の 135-7 と 135-8 は、条件の修正がある前に解いていた手順です。最終条件での手順は、最初に考えた手順とは大きく違っていきそうなのでギブアップしそうですが、頑張ってみます。」

■135-7 は余詰手順で正解、135-8 は僅かながら条件をクリアできていませんでした。出題数が多かった上での余詰3作では解く時間が足りなかったですね。申し訳ありませんでした。

ベベ&ペペさん「かなり悩みました。本年もよろしくお願いします。」

■こちらこそよろしくお願いします。

ほっとさん「最終手が 21」でもいろいろな形があるもの。しかし数が多くて1作1作の条件も多く、大変でした。」

■過去問だと、8作あれば2回出題に分けていたようなので、出し過ぎでした。

占魚亭さん「相変わらず低調です……。」

■低調というより、出題が多くて解図の意欲が湧かなかった？

ジェシーさん「今回は難問揃いで、直前ヒントに大いに助けられました。」

■ヒントは有効に活用してください。今年からは出題2週間後くらいに中間ヒントとして作者ヒントを投入していきます。

神在月生さん「短評を 書く余裕なし 情けなや」

■解答をお寄せいただけるだけでも助かります。解答者1桁の前はショックを受けたので。

原岡望さん「今回は詰パラに苦戦してこちらに手が回らずヒント頼みのメ切日解答です」

■締め切り日解答で全問正解はさすがです。

RINTAROさん「久しぶりに解けなかったです。1~7は比較的短時間で解けましたが、8が分かりません。もしかすると条件の勘違いや解釈の相違なのかもしれませんが、あまり考える気がしなかったのも事実です。残念ですが、解答発表を楽しみに待ちます。」

■135-8 では作者の狙いではありますが、11 と 21 の玉着手が後手の手だという先入観が災い

したようです。

山下誠さん「今年も年賀推理将棋を、長い時間
楽しく苦しみました。」

■ 昨年の年賀推理は3作で寂しかったので、今年
は6作を用意していたところ投稿締め切り日
後に+2になったのにそのまま1回で出題して
しまいました。

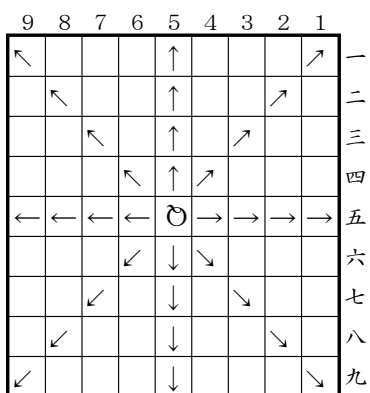
推理将棋第135回出題全解答者： 15名
NAOさん ミニベロさん 諏訪冬葉さん
飯山修さん 中村丈志さん 小山邦明さん
ベベ&ペペさん ほっとさん 占魚亭さん
ジェシーさん 神在月生さん 原岡望さん
RINTAROさん 山下誠さん はなさかしろう
さん

双裸 Q 王ばか詰

さんじろう

凡例

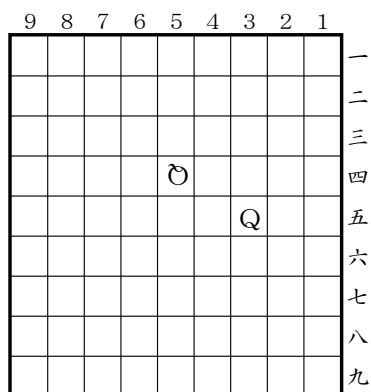
- すべてばか詰（協力詰）とする。
- 盤面には先手後手の王将だけ配置する。便宜的に先手は王、後手は玉とする。
- 王将、玉将の動き方はどちらもチェスのクイーンの動き方とする。成は設定しない。つまり常にクイーンの動き方とする。チェスのクイーンの動き方は将棋の飛車と角を合わせた動き。飛車や角と同様走り駒なので、途中で敵や味方の駒があるとそれより先には移動できない。



- 盤上に配置された王将玉将は Q で表すことにするが、どちらも玉なので自ら相手の駒の利きに移動するのは禁手である。すぐ分かるように、先手の Q は動かない。
- 使用する駒は先手後手の王将以外は将棋の駒だけとする。
- 先手の持駒は桂だけを考える。後手は盤面と先手の持駒以外の駒は自由に使えるはずだが、合駒を打つ機会がないので他の駒が登場することはない。
- 手順は厳密に非限定なしのものだけとする。

最初に次の例題をどうぞ。

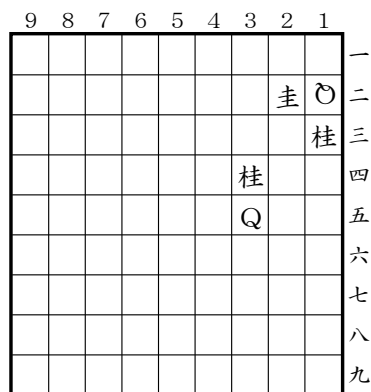
例題 9手詰



持駒 桂3

Q は目茶目茶強い駒なので、これを詰めるには盤の隅に追い込んで、縦横斜三方向の筋を遮断して詰め上げるのが普通である。先手の王将もクイーンのパフォーマンスだが、王自身で王手が掛けられないので、詰上りのサポート役に徹する。三方向の遮断のためには持駒の桂が最低 3 枚必要。遮断駒を省略することも可能だが、そのためにはよりたくさんの駒が必要になるのが普通である。

詰手順：46 桂 21Q 13 桂 22Q 14 桂 42
Q 34 桂 12Q 22 桂右成迄 9 手詰。
詰上りは次の通り。



持駒 なし

上の図で、王手駒の 22 圭を支えているのは 34 桂。22 圭、13 桂、34 桂の 3 枚が縦横斜三方向の利きを遮断していることが確認できる。35 Q が 13 桂と 34 桂を支えていて、確かに 12Q の逃げ場はなく詰んでいる。この形は Q と桂、成桂で Q を詰める典型的なものである。

Qでない通常の王将を詰める場合、桂馬の動きが変則過ぎて王手を連続で行い難いがそこはQがスーパーな駒なため、2枚以上の桂馬で追いかけて王手が連続するようにうまく逃げてくれる。双裸女王詰+持駒桂x枚はなかなかバランスの良い組み合わせになっていると思う。

今回双裸Q王詰(持駒桂4)を全検したわけだが、鏡像図を除いて完全作が82題見つかった。ただし、全検と言っても完全なものではなく漏れがあるかもしれない。

全検の過程で、意図しなかった持駒桂3枚の完全作が数題見つかった。

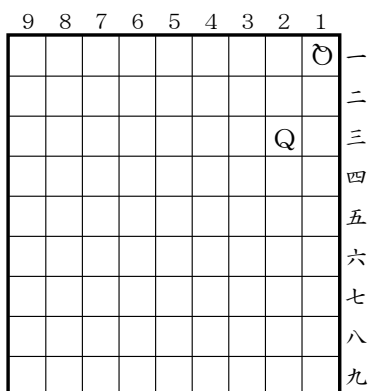
そのため、当初の予定になかった桂3枚の全検をする羽目になった。持駒が3枚の場合詰上がりにすべての駒が必要となり、その分詰手順がよりシビアになる傾向がある。手数も基本的に長い。その極端な場合として、不詰の問題が浮上する。

そもそも単玉の場合、持駒が金3枚あれば必ず詰む(19Q玉型)。持駒が金でなくても敵陣で成れば金に変わるの、他の持駒でも3枚あれば詰むように思えるがそうはいかないのだ。

単玉であれば玉位置が7段目より上方のとき、持駒の桂が3枚以上あれば必ず詰む。もちろん唯一解の保証はされないが、詰むことは確かである。

面白いのは双裸玉にすると詰まない形が出てくること。単純形として図1を上げる。

図1

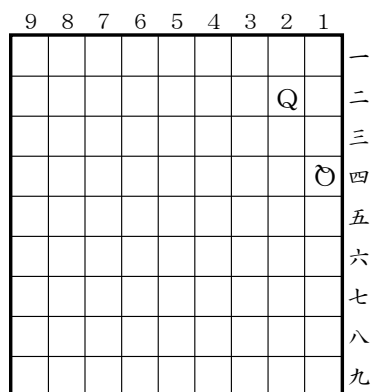


持駒 桂3

初手の桂打を自らのQ王が邪魔をしていて王手がかけられないので持駒の桂が何百枚あっても当然詰まない。

このように単純なものでもなくとも詰まない形が現れる。皮肉なものでクイーンは利きが絶大なため、邪魔駒としての働きも大きい。図2をご覧ください。

図2



持駒 桂3

初手は26桂と打てるし、その後2枚の成桂を作って王手を無限(?)に続けることができる。しかし初手に打った26桂を捌くことができない。34桂と飛び出すためには空王手はないので、Q玉を42に持って来ないといけないのだが、22Q王が動かないためそれは不可能である。22Q王の利きを遮断する駒を32に配置することは可能だが、その駒を生桂に出来ないことがその理由である。かといって、初手に打った桂をそのままにして詰上げるには駒が不足している。

以上のような理由で、双玉の位置関係で不詰の配置が現われることがある。持駒桂が4枚ある場合は、このようなことは起こらない。持駒の桂が4枚あれば図2の形であっても詰む(19手2解)。

以上のことを踏まえて、ここで問題である。

【問題】

持駒が桂3枚の場合、先手のQ王をある位置に置くと、後手Q王の位置に関係なくすべて不詰局面になる。そのような先手Q王の位置はどこか。

にわかには信じられないが、どうやらそうらしいのです。ただ、厳密な不詰の証明が出来ていないわけではないので、問題とするには不適當かもしれない。参考問題ということにしたい。興味のある方は考えてみてください。

以上、持駒の桂が 3 枚か 4 枚かの違いは意外に大きい。大雑把に言って、次のように言えるのではないかな。

4 枚：詰上がり形の面白さが醍醐味。

3 枚：詰上がりのバリエーションは少ない。詰上がり形がギリギリなので、手数が増えがち。そこで手数短縮の工夫が見どころとなります。

桂 3 枚の場合、先手の Q 王が 13 に利いている場合は、11Q に対して、31 圭、22 圭、13 圭(桂)の形などがある。また先手の Q 王が詰上がりにアシストできなそうにない場合は、最後の手段として、99Q に 97 桂 88 圭 89 圭の形(またはその鏡像図)に持ち込む手がある。先手王は基本的に詰上げるまでは邪魔駒!なので、その利きをいかにいかくぐるかが腕の見せ所です。

今回調べた結果だが完全作の中で、持駒 3 枚のものが 52 題、持駒 4 枚のものが 82 題あった。持駒 4 枚の最長作が 27 手詰、持駒 3 枚の最長作が 37 手詰だった。とは言え実際は手数の短いものがほとんどで、完全作のうち 15 手以下のものが 85% を占めている。

完全作の中から特徴のあるものを 15 題選んでこれから並べます。配列は手数順とする。前回の騎士王ばか詰と比べるとナイト王とクイーン王のキャラクターの違いで、手順に変化が多く華々しくクイーン王が飛び回る。自力で解くには大変な作ばかりだが、そんな時は気張らず正解手順を並べるだけでも楽しめるかと思う。その上解けたら無上の喜びが得られること必定と信じている。全検の結果については後でまとめて発表したい。 《問題編》

01 9手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				○					三
							Q		四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂3

02 9手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
		○							二
								Q	三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

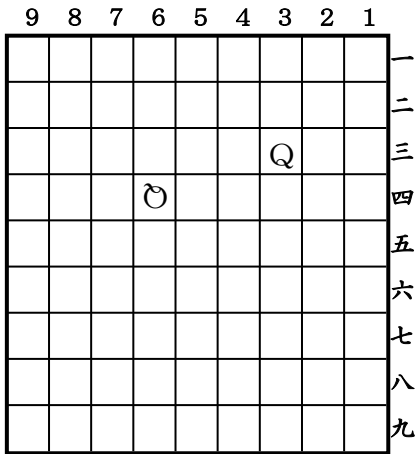
持駒 桂4

03 11手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					○				二
									三
									四
									五
									六
								Q	七
									八
									九

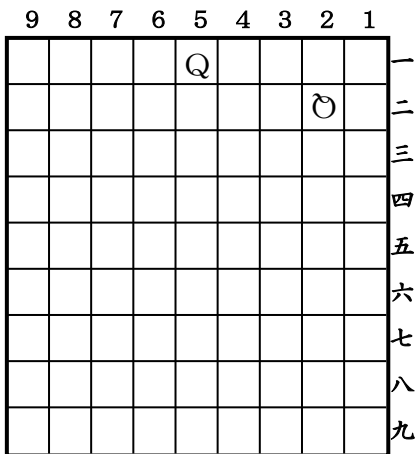
持駒 桂4

04 11手詰



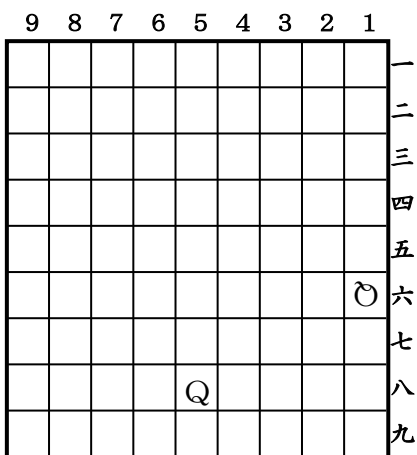
持駒 桂4

05 13手詰



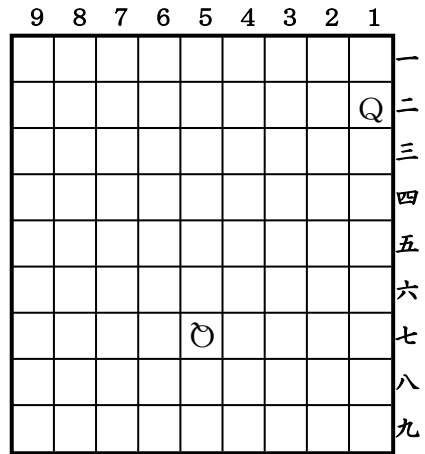
持駒 桂4

06 15手詰



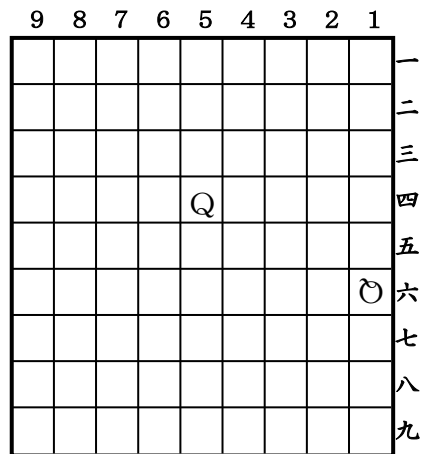
持駒 桂4

07 19手詰



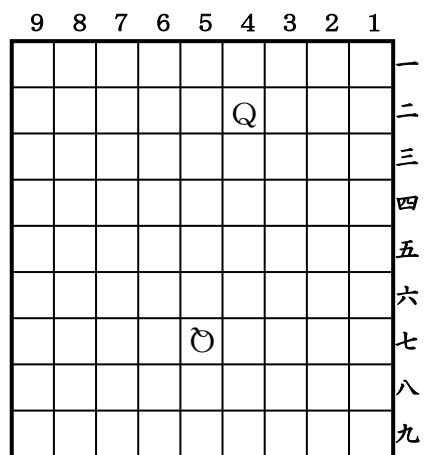
持駒 桂3

08 19手詰



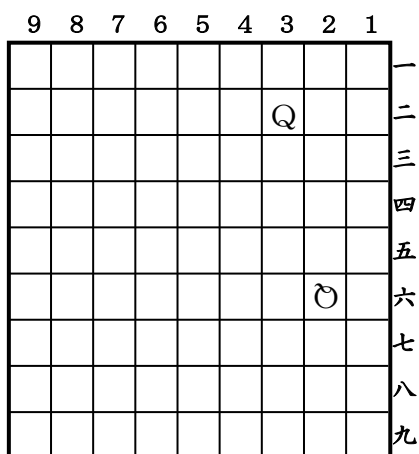
持駒 桂4

09 23手詰



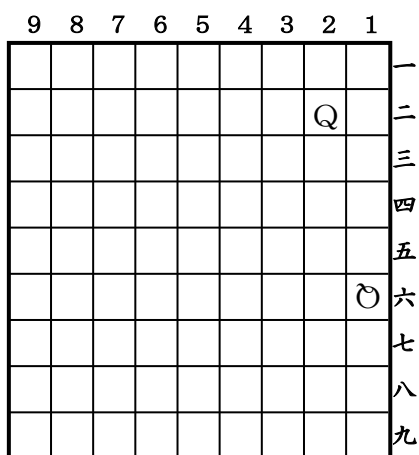
持駒 桂3

10 23手詰



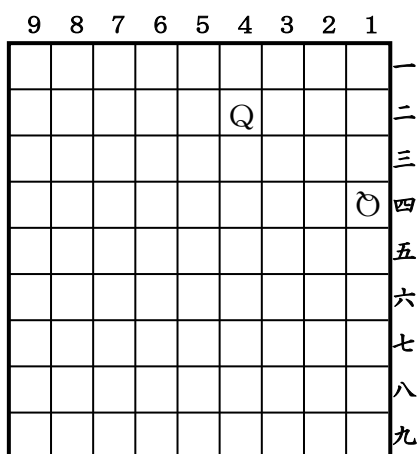
持駒 桂4

11 25手詰



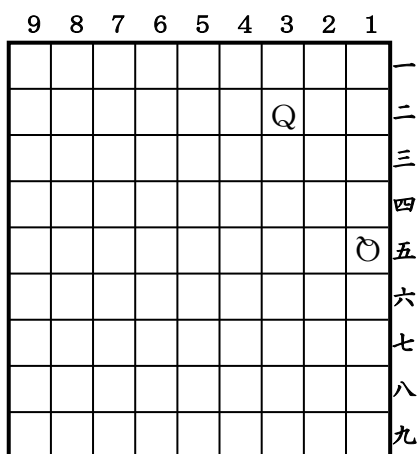
持駒 桂4

12 25手詰



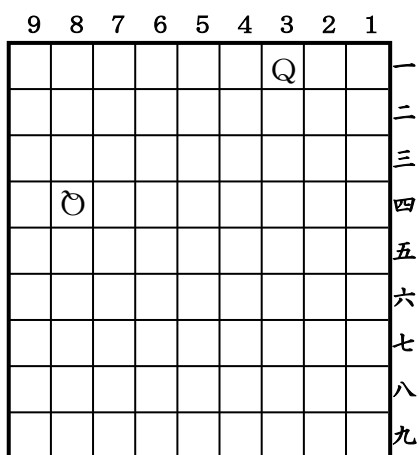
持駒 桂4

13 27手詰



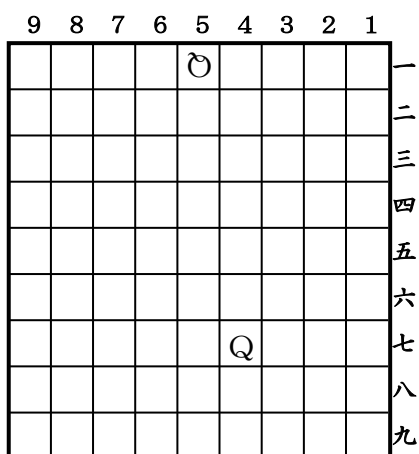
持駒 桂4

14 29手詰



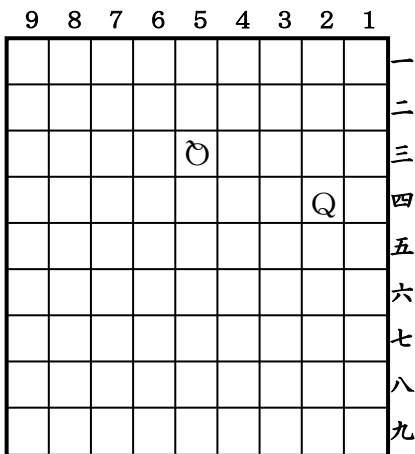
持駒 桂3

15 37手詰



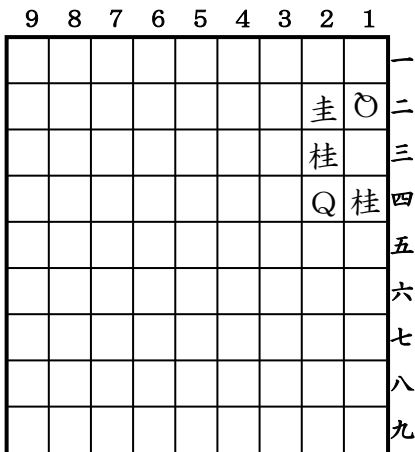
持駒 桂3

01 9手詰



持駒 桂3

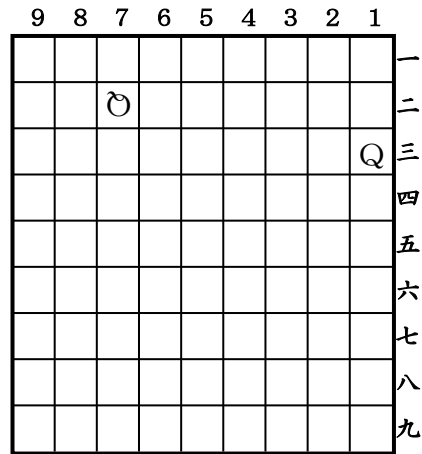
詰手順：45 桂 31Q 23 桂 22Q 14 桂 32
Q 33 桂成 12Q 22 圭迄 9 手詰。



持駒 なし

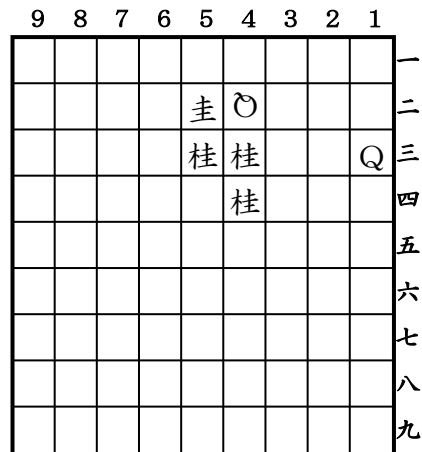
*本図は持駒 4 枚にしてもう 2 手逆算することもできるが、詰上りが面白いので本図を取りたい。6 手目顔面で受けるような 32Q がちょっと面白いが、全体的に自然な流れでとっつきやすさと詰上りだけが取り柄です。なお、詰上り図は 24Q を将棋の王に変えても成立する。だからと言って問題図で、24Q を 24 王と変えると本手順と同手順が成立するのはもちろん、6 手目 32Q のところで 42Q も生じるため余詰作になってしまう。

02 9手詰



持駒 桂4

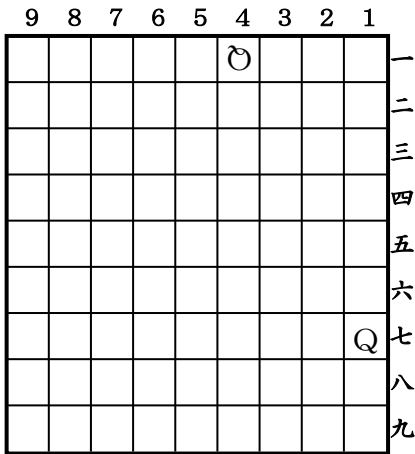
詰手順：64 桂 32Q 44 桂 41Q 53 桂 51
Q 43 桂 42Q 52 桂左成迄
9 手詰。



持駒 なし

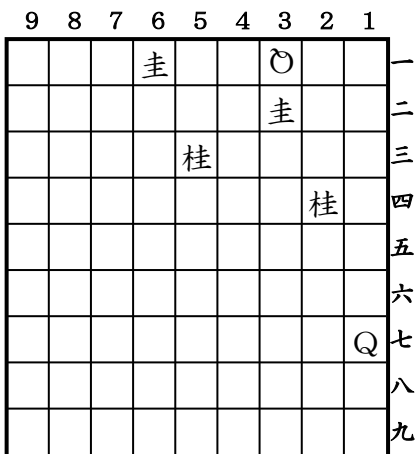
*持駒 4 枚で 9 手詰だから、生桂 3 枚と成桂 1 枚の詰上りを色々探ることになります。そういう意味では、解いた後やや機械的な感じを受けるかもしれない。詰上りは、生桂 3 枚のコンビネーションと 13Q の威力を見せつける図になっています。

03 11手詰



持駒 桂4

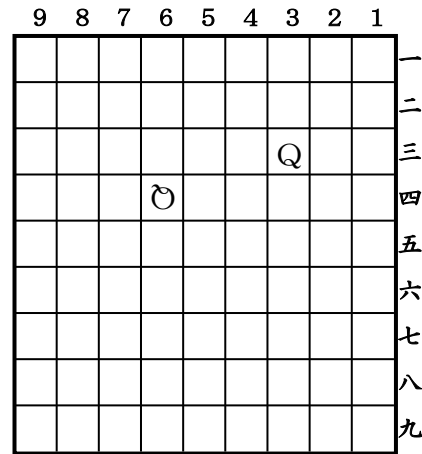
詰手順：53 桂 32Q 24 桂 52Q 44 桂 51
 Q 61 桂成 41Q 53 桂 31Q
 32 桂左成迄 11 手詰。



持駒 なし

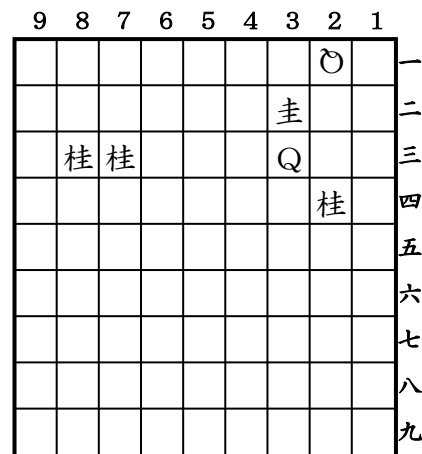
*一見して 17 王の近くで詰めるのは大変そうで、上辺で詰めることになるのか？しかしそうすると王が戦場から遠いので、どこでどうやって詰めるのかが悩ましい。結果的には 53 桂がキーになるのだが、17~53 のラインを一旦遮る 44 桂を打ったり、53 桂をあっさり 61 桂成として、再び 53 桂と打ち直したりと意表の手順が展開される。最終手の 32 桂左成で一気に霧が晴れるようにすべての伏線が回収される。

04 11手詰



持駒 桂4

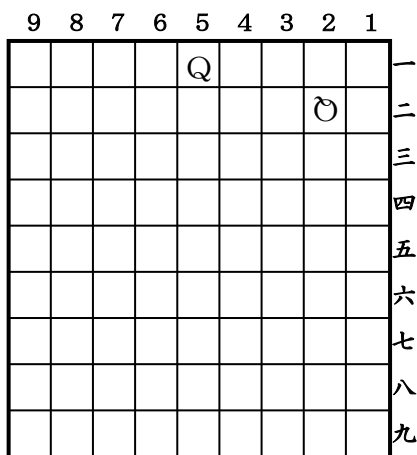
詰手順：56 桂 91Q 83 桂 61Q 73 桂 52Q 44
 桂跳 12Q 24 桂 21Q
 32 桂左成迄 11 手詰。



持駒 なし

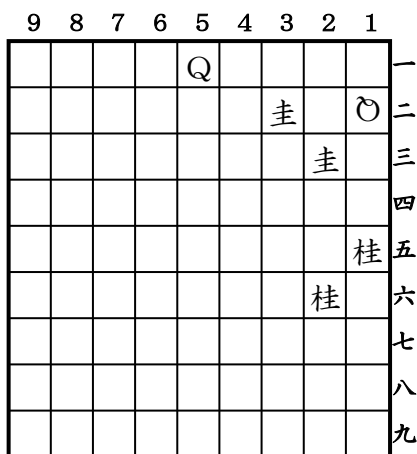
*たった 11 手のばか詰だが、意表の手順からこの詰上りはなかなかのものと思う。最終手で一見詰んでいるようにみえない。本図は今回調べた中で唯一、遮断駒 2 枚で詰上げるパターンでした。と言っても一方向を素通しにするために桂馬が 2 枚必要になっている。斜や縦の筋を素通しにするには、駒が足りない。今回調査の収穫の一つ。

05 13手詰



持駒 桂4

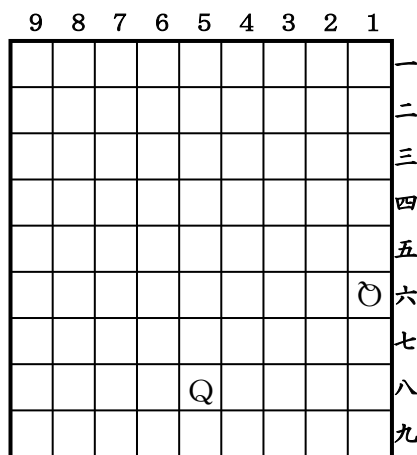
詰手順：34 桂 32Q 42 桂成 22Q 32 圭 23Q
 15 桂 43Q 35 桂 34Q 26 桂
 12Q 23 桂左成迄 13 手詰。



持駒 なし

*5手かけて、打った34桂をすぐに成桂に変える序盤が人を食っていて意外な展開です。その後の23~43~34~12というQの軌跡が影の主演でした。つまり詰める対象がクイーンならでは詰筋というわけです。最後の3手が急転直下と言う感じで、詰上りはQが15桂を支えているし、26桂が14を守っているし、かなり技巧的。大体一段目のQ王は、詰みの役に立てない。上手いこと使うものです。

06 15手詰



持駒 桂4

詰手順：28 桂 43Q 35 桂 44Q 36 桂跳
 22Q 14 桂 42Q 34 桂 12Q 24 桂
 11Q 22 桂左成 13Q 23 桂成迄
 15 手詰。



持駒 なし

*初形で後手の玉(Q)が先手陣に近い図面は、序盤自陣に打った桂馬を再活用のためポンポンと跳び出す展開になりやすく四桂詰の味が出てきます。本図はその上珍形詰上りの面白い図です。最後から4手目の11QがQ王詰ならではの手で、ついうっかりするところ。先手のQ王が自陣にある場合、詰み形にQ王が関与し難いのですが、こう言う使い方があったのか！

07 19手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
								Q	二
									三
									四
									五
									六
				○					七
									八
									九

持駒 桂3

詰手順：49 桂 53Q 45 桂 43Q 33 桂成
 25Q 37 桂跳 24Q 34 圭 51Q 43 桂
 53Q 45 桂跳 63Q 53 桂成 41Q 51 桂成 31
 Q 42 圭迄 19 手詰。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				圭		○			一
					圭			Q	二
									三
						圭			四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

占魚亭／三段跳ねて成った桂でトドメを刺す。
 はなさかしろう／桂の王手は 左右どちらから
 でも良さそうなのに、一意に決まっているの
 が素晴らしい...などと、本問を解いていると
 きはこの詰み形しかないと思っていたわけ
 ですが。
 一乗谷酔象／8方向の効きをどう潰していくか。
 43 桂を打つための 24Qがなかなか見えな
 かった。
 担当者（神無七郎）／本局の解き方としては、
 やはり詰上りから考えるのが常道です。王で
 王手はできないので、12Qは不動。桂が生の
 ままでは頼りないので、3枚とも成桂にする
 ことを考えると、正解に辿り着きやすいので

はないでしょうか。しかし、詰上りは予想通
 りでも、手順は予想以上に凄いものです。自
 由奔放に動けるはずのQの軌跡が唯一に定
 まるだけでも驚きですが、初手の 49 桂が三
 段跳ねして成り、最終手でとどめを刺す展開
 は、まるで作ったような様式美を感じさせま
 す。

担当者／作者（発掘調査物なので探求者と言っ
 た方が良くもありません）の審美眼を通し
 て、そのような作が選ばれているわけですが、
 そもそも存在していなければ選びようがあり
 ません。フェアリーの世界には、このよう
 な宝石が人知れず眠っていることを改めて
 感じます。

* 初手で打った 49 桂が、37～45～53～42 と四
 段活用されて、とどめをさす。考えてみれば
 持駒の3枚をすべて活用しないと詰まないの
 だから、当然検討すべき手順ではある。AIな
 らぬ人間はこういう手順の流れに快感を覚
 えるのです。3枚の成桂で詰上げる形は、11
 Qに対して 31 圭、22 圭、13 圭のタイプ（ま
 たは鏡像）は比較的多い（当然 13 圭は先手
 Q 王が支えているわけです）が、本図の詰上
 りは珍しい。一手の無駄もない美しい手順の
 流れの中で、34 圭を引き出す 24Qが地味な
 がら本題のキーになる手で、見え難いと思
 います。本作に 3 名も正解者が出たとは、びっ
 くりです。感謝感激です。

08 19手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
			Q						四
									五
								〇	六
									七
									八
									九

持駒 桂4

詰手順：28 桂 61Q 73 桂 41Q 53 桂 42Q 34 桂 24Q 36 桂 51Q 61 桂左成 52Q 44 桂 12Q 22 桂成 13Q 12 圭 31Q 32 桂成迄 19 手詰。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			圭			〇			一
						圭	圭		二
			桂						三
			Q						四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

*初手で打った 28 桂が 3 段跳びをして止めを刺す図。3 手目 53 桂と打ちたいところを 73 の方から打って、続けて 53 桂の重ね打ち。初手の 28 桂を再活用するためには、24Q が絶対必用なためそこに繋げる手順なわけ。そのように方針が決まれば 36 桂から 44 桂の手順を実現するための仕掛けを紡ぎ出せば良いことになる。そうは言っても 19 手にまとめる手順は難しい。本題の詰上りも中々なものです収束 5 手が鮮やか。

09 23手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					Q				二
									三
									四
									五
									六
				〇					七
									八
									九

持駒 桂3

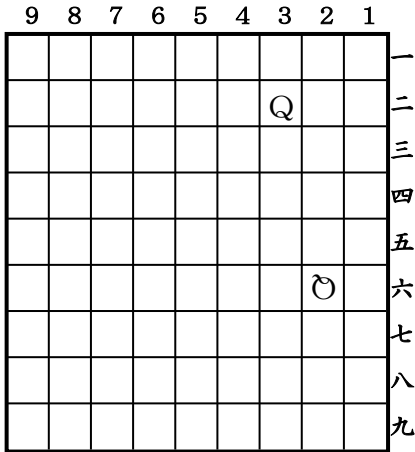
詰手順：49 桂 13Q 25 桂 23Q 33 桂成 25Q 37 桂跳 35Q 34 圭 13Q 25 桂跳 11Q 23 桂 14Q 13 桂成 36Q 35 圭 54Q 44 圭 21Q 31 桂成 11Q 12 圭迄 23 手詰。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						圭	〇		一
					Q		圭		二
									三
					圭				四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

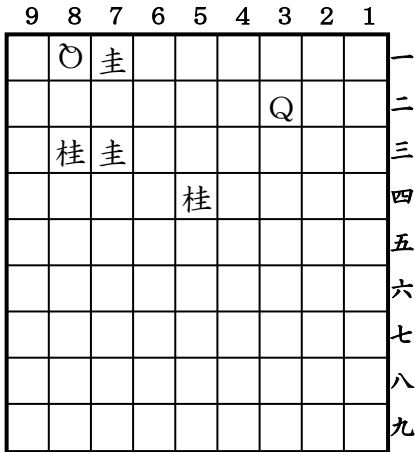
*詰上りが想定できないと、中盤で 3 枚の桂を手放して一旦囲いの外に逃がすことは思いつかないだろう。くるっと一回りしてから囲いの中に戻してピタッと詰め上げる。一分の無駄もないコンパクトな手順と詰上り。

10 23手詰



持駒 桂4

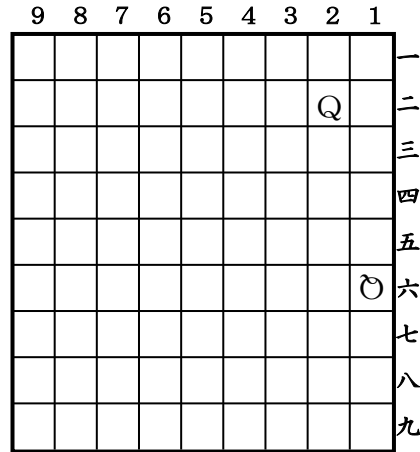
詰手順：38 桂 71Q 83 桂 73Q 85 桂 63Q 55 桂 53Q 43 桂成 54Q 46 桂 51Q 42 圭 62Q 54 桂 61Q 52 圭 72Q 62 圭 82 Q 73 桂成 81Q 71 圭迄 23 手詰。



持駒 なし

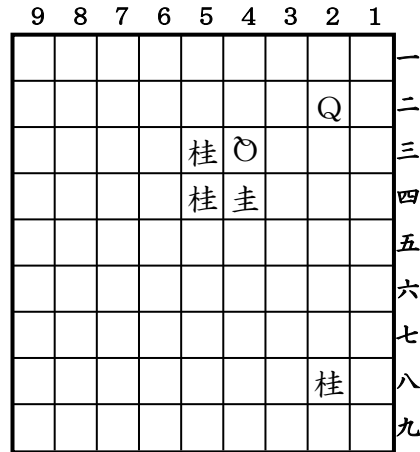
*本題も変わった詰上りです。左右で桂の二段活用をすることになるが、54 の桂は成らずに遮断駒として働いてもらうのは気付き難い。最終手は 32Q の横利きを通す手になっていて、気持ちが良い手。本題、Q の逃げ方に非限定が無いのが不思議。普通ばか詰は詰上りを想定してから手順短縮を考えるのですが、詰上りが想定し難く手数も長いので詰めるのは大変でしょう。

11 25手詰



持駒 桂4

詰手順：28 桂 86Q 78 桂 53Q 45 桂 43Q 33 桂成 41Q 32 圭 74Q 66 桂跳 73Q 65 桂 62Q 54 桂 61Q 53 桂生 34Q 33 圭 35Q 34 圭 45Q 35 圭 43Q 44 圭迄 25 手詰。



持駒 なし

担当者（神無七郎）／本局唯一の正解者は、はなさかしろう氏でした。強豪解答者の挑戦をことごとく跳ね返した難問を見事に突破しました。正直、出題時は正解者ゼロの危惧もしていましたが、これは快挙と言って良いでしょう。

*はなさかしろう／初手 28 桂と前問（本集第 7 番）の詰み形との相性が悪いので早めに見直したところ、是非実現したくなるこの詰み形が見つかってまず一驚。54 桂の実現が鍵ですが、逆算すると圭は 42 でなくて 32 にいて欲しいわけで、2 手目 13Q とできれば詰むの

に...などと、だいぶ遍歴しました。86Q から 53Q と桂 2 枚の跳ね上がりが気持ち良かったです。

担当者／... もちろん、詰上がりが分かりさえすればそれで万事解決ではありません。2 手目 Q 王の大移動。32 まで行って 35 まで戻る成桂など順算では発見困難な手順も多く、この詰上りに大ヤマを張り、覚悟を決めて取り組まないと、解ける物ではないでしょう。前局の様式美を感じる桂の使い方と異なり、人外の存在が生み出したかのような、凄みを感じる手順の作品でした。

* 10 番を一路ずらした配置だが、手順は全く異なる。初手の 28 桂を不動のまま活かすのは詰上がりが決まらなないと出来ない芸当だ。また 2 手目にどこに移動するのが手広くて、苦労されたのではないのでしょうか。正解は 86 Q ~ 53 Q で 45 桂を打たせる。33 桂成のときに 41 Q と移動できるのがクイーン王の威力。先手は待望の 32 圭で 22 Q の横利きを止めることができる。ここから 78 桂の再活用手順に入り、2 枚の生桂を縦に並べてから中段に追い出し、クルッと回って 43 の位置で意外性満点の詰上がりとなる。盤端ではない 43 という位置で詰め上げるこの形はアクロバティックで、唯一無二。全ての駒が目一杯利いている、奇跡の作。

* 今回の出題には正直勇気が必要でしたが、解答者の皆様のファイトはすごいものと感じ入りました。杞憂を吹き飛ばしてくれました。

12 25手詰

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
					Q				二
									三
								○	四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 桂4

詰手順：26 桂 13Q 25 桂 23Q 13 桂成 21Q
33 桂打 24Q 14 圭 25Q 15 圭 26Q 16 圭
71Q 63 桂 61Q 51 桂成
34Q 25 圭 23Q 34 圭 13Q 23 圭 11Q 12
圭迄 25 手詰。

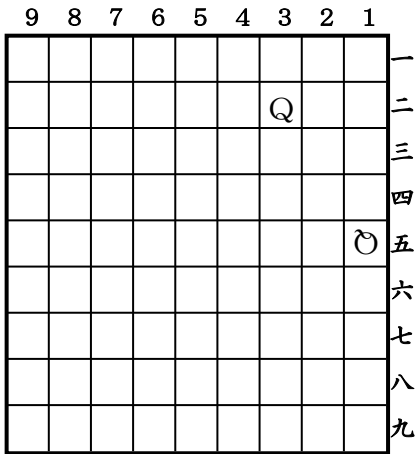
9	8	7	6	5	4	3	2	1	
				圭				○	一
					Q			圭	二
						桂			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

* 13 に成った桂馬が 14~15~16~25~34~23~12 と大冒険をします。その過程で、たった 4 枚しかない手駒の桂馬の内一枚を、玉方に取りせるといふ意外性あふれる一題。そうできるのも 42Q の位置がモノを言っているわけです。遮断駒 3 枚を一手に引き受ける頼りになるアニキ。手順中 5 手目の 13 桂成が意外なそっぽです。33 桂を打ちたかったわけですが、ここからノコノコと成桂が動き出して初手に打った 26 桂を取らせてしまうのが正解手順とは驚く。一種の邪魔駒消去と言っているのでしょうか。確かに 34Q を可能にする手順になっている。

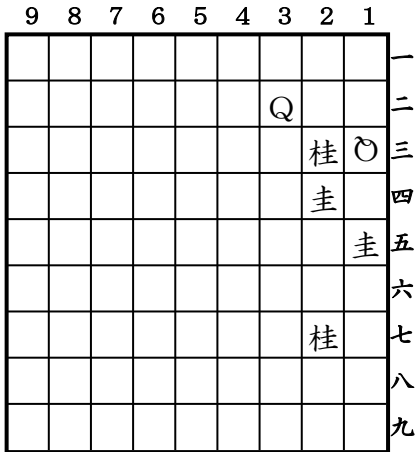
中盤 71Q と大ジャンプをするのは 51 に遮断駒の成桂をセットするため。以降の成桂と Q の動きは微妙にステップを合わせてダンスをしているように見えます。

13 27手詰



持駒 桂4

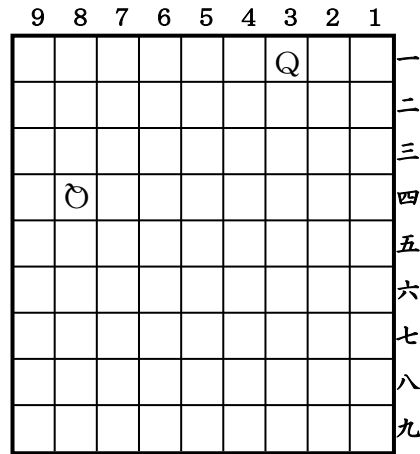
詰手順：27 桂 45Q 37 桂 63Q 55 桂 13Q 25 桂跳 11Q 23 桂 14Q 13 桂成 24Q 14 圭 44Q 43 桂成 45Q 44 圭 25Q 15 圭 26Q 16 圭 24Q 34 圭 14Q 15 圭 13 Q 24 圭寄迄 27 手詰。



持駒 なし

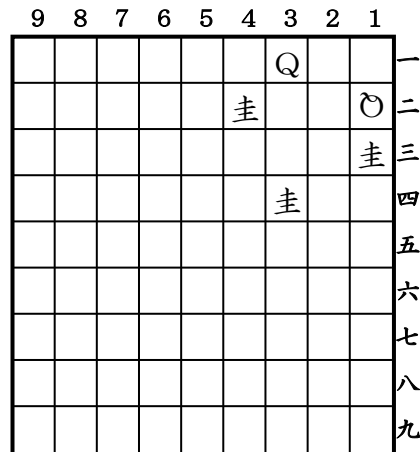
*持駒桂 4 枚としては今回調べた中で最長手数作。本題と同じ詰上りは他にない。途中 23 桂と打って 32Q の利きを止めておくのが細かい。この 23 桂は詰上りにも一役かっている。13 地点で詰上げるのは 2 題だけだが、対称地点の 93 で詰上がるのは 7 題ある。終盤は 2 枚の成桂でひたひたと追い詰める。その手順が色々ありそうだが、最短手数で Q 王を詰めるにはこれしかないのが不思議。

14 29手詰



持駒 桂3

詰手順：76 桂 73Q 65 桂 72Q 64 桂跳 54Q 53 桂成 44Q 54 圭 62Q 52 桂成 65Q 55 圭 43Q 42 圭 53Q 45 桂 23Q 33 桂成 24Q 34 圭 46Q 45 圭 36Q 35 圭寄 14Q 24 圭上 12Q 13 圭迄 29 手詰。



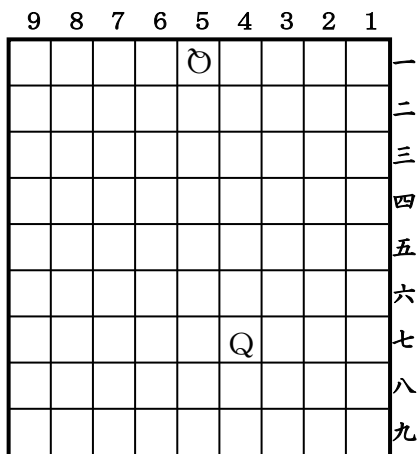
持駒 なし

*持駒が 3 枚だから詰筋に限られる。99 で詰めるには 2 枚の圭をそこまで持ってこなくてはならず、手数が大分長くなる。そこで右上で詰めようとするのだが初期配置が 84Q 王だから、それはそれで圭を遠くまで運ばなければならない。手順中 62Q から 65Q が意外な感じで、その後

55 圭 43Q で捉えたと思ったところで、42 圭に 53Q と一旦遠ざかるのが意表をつく。45 桂を打たせるためなのだが…。収束は Q 王ならではの逃げ方をして無事に隅で詰上がる。

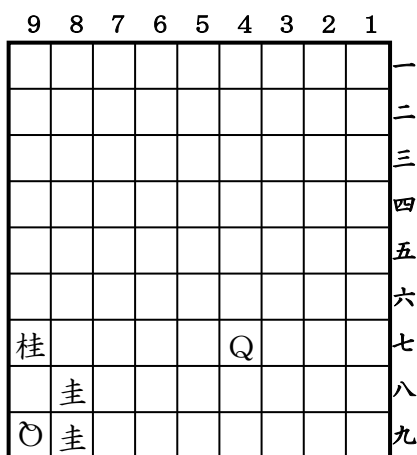
先手の 31Q 王の位置が微妙で、終始詰みの手助けをしているのか邪魔をしているのかよく分からない。逆王手がかからないように 31Q 王の利きを避けつつ 3 枚の桂（圭）を巧妙に操って隅に追い詰めて蓋をする。

15 37手詰



持駒 桂3

詰手順：63 桂 61Q 71 桂成 62Q 72 圭
 63Q 73 圭 85Q 97 桂 75Q 74 圭 76Q
 75 圭 66Q 76 圭 63Q 75 桂 93Q
 83 桂成 94Q 84 圭 95Q 85 圭引 96Q 86
 圭引 78Q 77 圭 88Q 87 圭引 79Q 78 圭
 89Q 79 圭 98Q 88 圭引 99Q
 89 圭寄迄 37 手詰。



持駒 なし

*今回調査した完全作の中で最長手数作。この 47Q 王はほとんど詰みの役には立たず、3 枚の桂で詰む形は入玉型の 19 か 99 の形しか考えられない。ただし、上のような縦型以外にも 99 玉 98 圭 88 圭 69 圭のような横型の詰上りも理論上は考えられる。横型の場合は

47Q 王の顔が立つが、3 枚の圭を下辺まで移動させなければならぬため手数が伸びる。いずれにしても 47Q 王は追い手順の邪魔ばかりしてイライラさせられる。基本的に 2 枚圭の追い手順になるが、手数短縮のポイントは早い段階で 97 桂を打つことと、最初の圭を 76 に待機させておくこと。47Q 王の利きを避けつつ、2 枚圭で追う手順は趣向的で美しい。これで最短解が一通りしかないのが信じられないくらい。ちなみに、51Q を 91Q としても本作と 2 手目以降が同手順の完全作となっている。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【10-1】

協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
					王	銀			九

持駒 G

38 銀 48 玉 18G 28 金 37 銀 39 玉
 28 銀 29 玉 19 金 まで 9手

占魚亭

ウォーミングアップといった所でしょうか。

【10-2】

協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					王	香			三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 G4

13G 32 玉 14G 31 玉 22G 21 玉
 24G 11 玉 12G まで 9手

占魚亭

気持ちのいい開き王手。

【Grasshopper】(G)

フェアリーチェスの駒。クィーンの上で、ある駒を1つ飛び越したその直後の地点に着地する。そこに敵の駒があれば取れる。

※各題Gの総駒数は4の設定です。

【10-3】

協力詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
					馬				六
					王				七
									八
									九

持駒 G4

54G 47 角成 37G 58 玉 36G 48 馬
 38G 49 玉 27G まで 9手

占魚亭

最終手を見据えた初手の限定打に唸る。

【10-4】

協力詰 11手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
								王	七
								王	八
									九

持駒 G3

19G 28 金 39G 38 金 28G 27 玉
 49G 29 金 同G 18 玉 19 金 まで 11手

占魚亭

金を取るまでの流れが面白かったです。

※毎度解答ありがとうございます。

Fairy TopIX2020投票要項

Fairy TopIXとはウェブサイトで開催されたフェアリー詰将棋・推理将棋・プルフゲームを対象にお気に入り投票を行い、上位作に授賞するものです。Fairy TopIX2020は2020年にウェブサイトで開催された作品の中からお気に入り投票によって選ばれます。

【投票宛先】

WFP事務局(たくぼん)宛にメールにてお願いします。 takuji@dokidoki.ne.jp

【スケジュール】

投票開始：2021年4月5日
投票締切：2021年5月10日
結果発表：WFP令和3年5月号(155号)

【対象】

2020年にWeb Fairy Paradise誌に掲載された作品(過去作の紹介作は除く)。なお詳しくは後日発行予定の対象作品一覧で確認下さい。またWFP作品展につきましては神無七郎氏のサイト(OFM)でも全作品動く盤面で鑑賞いただけますのでそちらを参照下さい。

【部門区分】

【フェアリー詰将棋】

短編部門：～15手
中編部門：16～49手
長編部門：50手～
推理将棋・プルフゲーム 手数区分なし

以上4部門となります。

【投票の仕方】

お気に入り投票として実施しますので何作投票していただいても構いませんが、お気に入り上位3作には1位～3位までの明記下さい。投票の際には集計間違いを防ぐため下記の項目を記載いただくと助かります。

- ・ 部門名
- ・ WFP何月号(または何号)
- ・ 作品展名(またはコーナー名)
- ・ (あれば)作品番号
- ・ 作者名&ルール名&手数
- ・ 投票作品へのコメント(部門別及び全体通してのコメントも出来ればお願いします)

*なお対象作品一覧には通し番号を打ってますのでなるべくこちらの記載番号でお願いします(推奨)

。

【投票集計方法】

投票順位に応じて作品毎に下記ポイントを加算し、各部門での合計ポイント順に授賞します。

- 1位：5点、
- 2位：3点
- 3位：2点
- 上記以外：1点

各部門得票数上位3作までが授賞となります。作者に授賞コメントをお願いすることになりますのでご協力よろしくお願いします。

お気に入り投票ですので、全部の作品を見てなくても構いません。お気に入りの作品をお好きなだけ書いて投票いただければ結構です。1票でも得票がある作品はすべて5月号に掲載いたします。今年もたくさんの投票をよろしく願います。

※なお投票数がなかなか伸びない場合には、昨年投票者の方々にお願いメールをする場合がありますのでよろしく願います。

※対象作品一覧は4月始めごろHPに掲載しますので今しばらくお待ち下さい。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

2020年4月10日(土)

推理将棋第 137 回出題

推理将棋 3 題

2021年4月15日(月)

第 129 回 WFP 作品展

フェアリー作品 1 1 題

2021年5月15日(土)

第 130 回 WFP 作品展

フェアリー作品 1 1 題

作品募集一覧

Fairy of the Forest #66

協力詰 課題「自由課題」

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

詳細は P35 をご覧ください

第 54 回神無一族の氾濫

課題：将棋の格言にちなんだ作品

投稿締切：2021 年 4 月 18 日 (日)

投稿先：神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com)

(詳細は P13 をご覧ください)

「(ライトな)フェアリー短編コンクール」作品募集

7月上旬に「(ライトな)フェアリー短編コンクール」を私のブログ「占魚亭残日録」で開催します(『WFP』にも出題稿と結果稿を投稿予定)。条件は下記の通りです。

・フェアリー作品 (フェアリーの解釈は投稿者に任せます)

※要は「フェアリー詰将棋以外も受け付ける」ということです。

・手数は 10 手まで

・フェアリー駒 (透明駒、Grasshopper、Imitator など)・変則盤・複合ルール (例：安南キルケ、Andernach-Isardama といったもの)は不可

・石・穴の使用は可

・非標準駒数は可

投稿締切は 6 月 30 日 (水)。

投稿数は 1 人 1 作とさせていただきます (募集期間内であれば差し替えは可能)。

自作解説を明記のうえ、下記のどちらかの方法で占魚亭までお願いします。

①メール：sengyotei■gmail.com (■を@に変えてください)

②Twitter の DM

なお、投稿作の検討はこちらではしません。投稿、お待ちしております。

【あとがき】

上記記載がありますが、占魚亭さんのブログ「占魚亭残日録」で開催されます。占魚亭さんですので、フェアリー駒やニッチなルールかと思いきや、シンプルなルールで開催されます。普通詰将棋の複数解物等を意識されての開催かと思えます。これまでとは異なる作品展になりそうですので私も楽しみです。WFP でも掲載予定ですので奮って投稿よろしくお願いします。

たくぼん

2021 年 第 153 号

Web Fairy Paradise

非売品

令和三年三月号

令和三年三月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp